

---

平成 21 年度 平塚市美術館年報

ANNUAL REPORT of the Hiratsuka Museum of Art 2009

April 2009 - March 2010

---

## 平成 21 年度 平塚市美術館年報 目次

<b>I 作品・資料</b> .....	3
(1) 収集	
(2) 展示	
(3) 貸与	
(4) 保存修復	
<b>II 展覧会</b> .....	6
1 特集展 新収蔵品展 .....	6
2 企画展 近代日本洋画の華 愛知県美術館所蔵品展 .....	7
3 特集展 山本直彰展 帰還する風景 .....	10
4 企画展 わたしがえらんだ いわさきちひろ展 .....	13
5 企画展 カー・デザインの歴史－NISSAN 情熱と機能の美－.....	17
6 特集展 秋の所蔵品展 戦後美術の多様な表現 .....	21
7 特集展 冬の所蔵品展 祈りのかたち .....	23
8 特集展 ロビー展 保田春彦の世界－近作彫刻を中心に－ .....	25
9 特集展 湘南と作家 原精一展 .....	26
<b>III 教育普及</b> .....	28
(1) 教育プログラム	
(2) 団体向け研修・体験プログラム	
(3) 職場体験	
<b>IV その他の事業</b> .....	34
(1) 事業	
(2) 定例会議	
(3) 「平塚市美術館友の会」活動	
<b>V 施設利用者等の統計</b> .....	38
(1) 展覧会	
(2) 貸出施設	
<b>VI 施設の管理</b> .....	40
(1) 防災訓練・冷凍機更新工事	
(2) 施設の貸出について	
<b>VII 沿革</b> .....	43

# I 作品・資料

## (1) 作品収集

2009年10月14日(火)、美術品選定評価委員会で審議をおこない、購入作品4点、寄贈作品39点(資料一式含)、寄託作品10点を受けいれました。

### 購入作品

作家名	作品名	制作年	サイズ(cm)	技法材料	点数
鳥海青児	セリスト (B)	1937年	53.0×41.0	油彩・キャンバス	1
鳥海青児	高カラーの男	1938年	60.5×42.0	油彩・キャンバス	1
鳥海青児	道化	1938年	25.8×20.5	油彩・キャンバス	1
鳥海青児	夜のノートル・ダーム	1932年	33.0×23.4	油彩・キャンバス	1

### 寄贈作品

作家名	作品名	制作年	サイズ(cm)	技法材料	点数
郭 徳俊	フォードと郭 (B)	1974年	61.3×87.6	インク・紙	1
絹谷幸二	ピエロ・デラ・フランチェスカ作品 模写(アレツォ・イタリア)	不明	77.5×88.5	フレスコ	1
久野和洋	古代の地(II) TARQUINIA	1989年	130.3×145.5	油彩・キャンバス	1
久野和洋	地の風景・野に咲く	1999-2000年	145.5×130.3	油彩・キャンバス	1
久野和洋	地の風景・道のかたち	2000-01年	130.3×194.0	油彩・キャンバス	1
久野和洋	地の風景・雨あがる	2005年	145.5×145.5	油彩・キャンバス	1
久野和洋	筍二個と水差し	2008年	65.2×91.0	油彩・キャンバス	1
黒川弘毅	EROS71	2009年	50.0×28.0×12.0	ブロンズ	1
郷倉和子	飛鳥路の春	1999年	77.0×143.0	彩色・紙/屏風	1
嶋 剛	SHONAN2	1988年	182.0×227.0	アクリル・キャンバス	1
嶋 剛	過ぎし日々	1999年	181.8×227.3	鉛筆、油彩・キャンバス	1
鳥海青児	ピアチェンツァ	1957年	19.5×12.5	鉛筆・紙	1
鳥海青児	資料一式	-	-	-	-
平野杏子	磨崖仏讃 I	1978年	170.0×300.0	油彩・キャンバス	1
平野杏子	磨崖仏讃 II	1978年	170.0×300.0	油彩・キャンバス	1
平野杏子	磨崖仏讃 III	1978年	170.0×300.0	油彩・キャンバス	1
平野杏子	迦毘羅城の黄昏	1971年	182.0×227.5	油彩・キャンバス	1
二見利節	ばら	1959年	45.5×38.2	油彩・キャンバス	1
益井三重子	オランダ所見	1980年	192.0×138.0	彩色・紙	1
宮崎進	囚われ	1995年	45.5×34.8	インク・紙	1
山本直彰	仮面 I	1973年	116.8×91.0	彩色・紙	1
山本直彰	セールスマンの肖像	1985年	227.0×182.0	彩色・紙	1
山本直彰	IKAROS	1986年	162.2×130.3	彩色・紙	1
山本直彰	坐したる像	1988年	130.3×162.2	彩色・紙	1
山本直彰	Republic Square I	1993年	172.0×72.0	彩色・木	1
山本直彰	Republic Square III	1993年	190.0×72.0	彩色・木	1

山本直彰	Republic Square IV	1993年	229.0×98.6	彩色・木	1
山本直彰	Untitled	1993年	191.7×114.1	彩色・木	1
山本直彰	Untitled	1993年	198.5×91.4	彩色・木	1
山本直彰	Man, Woman, Child	1993年	195.0×87.5	彩色・木	1
山本直彰	IKAROS 901	2001年	201.0×285.5	彩色・紙	1
山本直彰	PIETA 20062	2006年	269.1×201.1	彩色・紙	1
山本直彰	帰還II	2009年	333.3×552.0	彩色・紙/パネル6枚	1
山本直彰	帰還IV	2009年	363.6×333.3	彩色・紙/パネル3枚	1
山本直彰	帰還1	2009年	77.5×54.5	木炭、パステル、鉛筆・紙	1
山本直彰	帰還2	2009年	77.5×54.5	木炭、パステル、鉛筆・紙	1
山本直彰	帰還3	2009年	77.5×54.5	木炭、パステル、鉛筆・紙	1
山本直彰	帰還4	2009年	77.5×54.5	木炭、パステル、鉛筆・紙	1
山本直彰	帰還5	2009年	77.5×54.5	木炭、パステル、鉛筆・紙	1

#### 寄託作品

作家名	作品名	制作年	サイズ(cm)	技法材料	点数
海老原喜之助	曲馬	1930年頃	72.8×100.2	油彩・キャンバス	1
久野和洋	複製画のある静物	2009年	130.3×130.3	油彩・キャンバス	1
黒川弘毅	EROS 72	2009年	90.5×58.0×19.0	ブロンズ	1
福井江太郎	集	1996年	180.0×720.0	彩色・紙/パネル8枚	1
三輪休雪	黒の風景	1982年	70.5×60.5×17.0	陶磁	1
山本直彰	帰還I	2009年	363.6×333.3	彩色・紙	1
山本直彰	セールスマンの肖像	1985年	227.0×182.0	彩色・紙	1
山本直彰	M氏の5つの肖像	1986年	651.5×193.9	彩色・紙/パネル5枚	1
山本直彰	DOOR	1992年	181.8×227.3	彩色・紙	1
山本直彰	Door S-2	1995年	201.1×311.0	彩色・紙/パネル2枚	1

## (2) 展示

NO	種別	展覧会名	出品点数	うち所蔵・寄託	うち借用
1	特集展	新収蔵品展	32	32	0
2	企画展	近代日本洋画の華 愛知県美術館所蔵品展	85	0	85
3	特集展	山本直彰展 帰還する風景	63	0	63
4	企画展	わたしがえらんだ いわさきちひろ展	128	0	128
5	企画展	カー・デザインの歴史展－NISSAN 情熱と機能の美－	159	0	159
6	特集展	秋の所蔵品展 戦後美術の多様な表現	40	40	0
7	特集展	ロビー展 保田春彦の世界－近作彫刻を中心に－	18	3	15
8	特集展	冬の所蔵品展 祈りのかたち	53	53	0
9	特集展	湘南と作家 原精一展	49	49	0
計	—	—	627点	177点	450点

### (3) 貸与

開催される展覧会の内容や意義、開催場所の設備・環境、作品の状態や当館での利用予定などを考慮し、16団体に計33点を貸し出しました。

NO	貸出先	展覧会名・会期	点数	作家・作品名
1	愛知県美術館	アニマルズ in AAC 3月24日(火)～5月25日(月)	2	三沢厚彦「ユニコーン」(寄託作品)
2	山口蓬春記念館	山口蓬春・絵の秘密展 3月27日(金)～5月31日(日)	1	山口蓬春「水田」(寄託作品)
3	明石市立文化博物館、 高岡市美術館	日本画-描かれた日本の心-文化勲章受章の 巨匠38人による展 4月3日(金)～7月20日(月)	1	山本丘人「奔流」(寄託作品)
4	損保ジャパン東郷青児 美術館	没後80年 岸田劉生-肖像画をこえて展 4月25日(土)～7月5日(日)	3	岸田劉生「自画像」「Aの肖像」「F氏像」
5	東京都美術館	美術館連絡協議会主催 日本の美術館名品 展 4月25日(土)～7月5日(日)	2	鳥海青児「ピカドール」、安田靫彦「赤星 母堂像」
6	茅ヶ崎市美術館	生誕90年 銅版画家・菅野陽一創世の海- 9月6日(日)～11月8日(日)	2	菅野陽「やつで」「高架線の下」
7	滋賀県立近代美術館、 栃木県立美術館	日本画創造の苦悩と歓喜 大正期、再興院 展の輝き 滋賀：9月12日(土)～10月25日(日) 栃木：11月1日(日)～12月13日(日)	8	横山大観「不盡之高嶺」、安田靫彦「日 食」、今村紫紅「水汲む女」「牛飼う男」「熱 国之巻下絵」(2点組) 「入る日・出る月 (小下絵)」、前田青邨「秋風五丈原」
8	天心記念五浦美術館	日本画にみる世界遺産の旅 10月17日(土)～11月23日(月)	1	麻田鷹司「金閣雪景図」(寄託作品)
9	豊田市美術館	近代の東アジアイメージ-日本近代美術は どうアジアを描いてきたか 10月10日(土)～12月27日(日)	1	鳥海青児「蘇州風景」
10	埼玉県立近代美術館	南画の近代-自由な表現を求めて 2010年1月13日(水)～5月7日(金)	3	萬鉄五郎「茅ヶ崎風景」「田園風景」「湘南 風景」
11	松坂屋美術館	近代日本の巨匠-文化勲章 3月6日(土)～4月11日(日)	4	安田靫彦「赤星母堂像」、小糸源太郎「早 春」、小山敬三「晩秋飛瀑」、淀井敏男「ト レドの羊飼」
12	川崎市市民ミュージアム	安田靫彦展 3月13日(土)～4月18日(日)	2	安田靫彦「日食」「孔子観河」
13	ニューオータニ美術館	安田靫彦-花を愛でる心展 3月13日(土)～4月18日(日)	2	安田靫彦「新蔬」「寒香留古春」
14	大阪高島屋	没後10年記念 三岸節子展 3月31日(水)～4月19日(月)	1	三岸節子「アルス村の広場」(寄託作品)
計	—	—	33点	—

### (4) 保存修復

屋外設置の彫刻7点について酸性雨水による腐食防止処置を、絵画作品1点について、保存修復処置をほどこしました。

NO	作家	作品	材質	点数	処置
1	ホセ・デ・リヴェラ	コンストラクション#115	ステンレススチール	1	本体クリーニングと回転部メカニ ズムの保守点検
2	保田春彦	赤錆の幕舎	鉄	1	グランドライン設置面の腐食防止 メンテナンス
3	保田春彦	地を這うかたち	ブロンズ	1	洗浄後、ワックス塗布
4	佐藤忠良	緑	ブロンズ	1	洗浄後、ワックス塗布
5	舟越保武	海の顕彰碑-渚-	ブロンズ	1	洗浄後、ワックス塗布
6	柳原義達	座る女	ブロンズ	1	洗浄後、ワックス塗布
7	淀井敏夫	海	ブロンズ	1	洗浄後、ワックス塗布
8	鳥海青児	ピカドール	油彩・キャンバス	1	—
計	—	—	—	8点	—

# I 展覧会

## ■ 1 新収蔵品展

会期：2009年4月11日(金)～5月24日(日) 開催日数 39日



速水御舟《椿》当館寄託

種別 特集展  
 主催 平塚市美術館  
 観覧料 一般 200(140)円、高大生 100(70)円  
 ※各減免を除く  
 入場者数 3,649人  
 担当 勝山滋(当館学芸員)

### ●内容

平塚市美術館では開館以来「湘南の美術・光」をテーマに、近現代の洋画・日本画・彫刻の作品を中心に収集を行ってきました。

2008年度も多くの素晴らしい作品の寄贈・寄託を受けることができ、本展では、それらの作品および今回が当館での初展示となる作品 32 点を紹介しました。日本画では、開催した展覧会をきっかけにした速水御舟、伊藤彬など。そして、上田臥牛、松尾敏男、近藤浩一路などの作家たち。洋画では、平野杏子の版画と油彩画や本荘尠の油彩画と水墨画、竹工芸では馬場松堂、藤塚松星の作品を展示しました。昨年 1 年間に寄贈・寄託をうけた洋画、日本画、工芸などの作品は、それぞれのジャンルの伝統をふまえながら、新しい表現を模索する作家たちの作品です。平塚市美術館の新たな収蔵・寄託作品を展覧しました。

### ●出品リスト

NO	作家名	作品名	制作年	サイズ(cm)	技法材料	所蔵先
1	中ザワヒデキ	脳内混色絵画 C2M1Y1#1	2007年	71.0×71.0	合成樹脂、アルミフレーム	寄託
2	平野杏子	さんま	1952年	72.8×91.0	油彩・キャンバス	当館
3	平野杏子	触手のある唇	1962年	80.5×100.0	油彩・キャンバス	当館
4	平野杏子	菩提樹の下のある日	1970年	130.3×162.1	油彩・キャンバス	当館
5	平野杏子	天の秘	2007年	130.5×486.0	油彩・キャンバス	当館
6	平野杏子	オトタチバナヒメ	2002年	各 28.0×40.0	シルクスクリン・紙	当館
7	速水御舟	椿	1934年頃	各 29.1×41.4	彩色・紙	寄託
8	速水御舟	松(下図)	1935年	203.0×56.2	墨・紙	寄託
9	武田倫子	Peep out	2008年	112.0×162.0	油彩・キャンバス	当館
10	松尾敏男	海峡(湊)	1971年頃	60.5×92.0	彩色・紙	寄託
11	岩橋英遠	戸隠	1976年	148.0×208.0	彩色・紙	寄託
12	馬場松堂	潮騒	1968年	125.0×155.0×25.0	竹	当館
13	藤塚松星	天の河	1989年	21.0×35.0×20.0	竹	当館
14	近藤浩一路	嵐峽	不明	13.25×38.3	墨・紙	寄託
15	本荘尠	柿本人麿像	不明	37.2×50.5	彩色・紙	寄託
16	本荘尠	寒山像	不明	43.3×27.0	彩色・紙	寄託
17	本荘尠	歌舞伎図	1944年	135.0×437.0	彩色・紙	当館
18	上田臥牛	波濤	1961年	230.0×384.0	彩色・紙	当館
19	伊藤彬	夕オ	1996年	180.0×120.0	彩色・紙	当館
20	伊藤彬	歌う女	1963年	120.0×150.0	彩色・紙	当館
21	伊藤彬	不安な群集	1964年	92.0×120.0	彩色・紙	当館
22	伊藤彬	夢の入口	1963年	80.0×64.0	彩色・紙	当館
23	伊藤彬	草原	1974年	120.0×170.0	彩色・紙	当館
24	伊藤彬	我が子への絵物語り(月が降りてきた)	1978年	180.0×230.0	彩色・紙	当館
25	伊藤彬	影	1975年	160.3×122.3	彩色・紙	当館
26	伊藤彬	甦る沼	1969年	180.0×120.0	彩色・紙	当館
27	伊藤彬	孤月	1977年	176.0×176.0	彩色・紙	当館
28	伊藤彬	優曇華の花びらが散ってゆく	1979年	150.0×180.0	彩色・紙	当館

●関連事業

事業名	日時、場所、講師等	参加者数
担当学芸員によるギャラリートーク	4月18日(土)、5月16日(土) 各回14:00~14:30 展示室 I	計18人

●主な紹介記事・番組

月日	紹介内容
4月2日(木)	「速水御舟ら作品30点 平塚市美術館で新収蔵品展」 タウンニュース 1094号

■ 2 近代日本洋画の華 愛知県美術館所蔵品展

会期：2009年4月25日(土)~6月21日(日) 開催日数51日

種別	企画展
主催	平塚市美術館 愛知県美術館
協賛	神奈川中央交通株式会社
観覧料	一般 700(560)円、高大生 500(400)円 ※各減免をのぞく
入場者数	6,625人
担当	江口恒明(当館学芸員)



リーフレット



巖光《自画像》1934年 愛知県美術館蔵



小出権重《蔬菜静物》1925年 愛知県美術館蔵

●内容

本展では、愛知県美術館の所蔵する作品の中から、近代日本洋画の名品を紹介しました。愛知県美術館は、名古屋市の中心部にある複合文化施設・愛知芸術文化センター内に1992年に開館しました。現在の愛知県美術館のコレクションは、同館の前身である愛知県文化会館美術館の時代から、50年以上にわたって収集されたものです。その内容は、明治以降の洋画・日本画、20世紀以降のヨーロッパ・アメリカ美術を中心としながら、近年では江戸時代以前の絵画・工芸作品も多数加わっています。中でも、明治から現代までの洋画コレクションは、各時代を代表する名品が集められています。

本展では、この幅広いコレクションの中から、明治初期より1980年代までの85点を選び、展示しました。明治時代では、油彩画の開拓者 高橋由一、外光派の表現をとり入れ、アカデミズムの礎をつくった黒田清輝、久米桂一郎など。大正期では自己の内面に目を向けた表現を追求した木村荘八、中村彝など。昭和戦前期の作家としては、独自のマチュールによってパリの画壇で脚光をあびた藤田嗣治や、日本の風土に根ざした油絵の表現を目指した梅原龍三郎、安井曾太郎などを紹介しました。戦後作家としては、具象絵画を代表する林武、鳥海青児、岡鹿之助や、戦前から抽象絵画に取り組んでいた村井正誠、オノサト・トシブなどを紹介し、加えて、熊谷守一作品15点と棟方志功の版画作品も展示しました。また、愛知県ゆかりの作家で、関東近県では見る機会の少ない宮脇晴、大沢鉦一郎、北川民次、杉本健吉といった作家の作品を展示し、愛知県美術館の充実したコレクションにより、多様な発展をとげてきた近代日本洋画をご鑑賞いただきました。

●出品リスト

NO	作家名	作品名	制作年	サイズ(cm)	技法材料
1	高橋由一	不忍池	1880年頃	67.0×97.2	油彩・キャンバス
2	山本芳翠	月下の裸婦	1882年	60.6×80.3	油彩・キャンバス
3	久米桂一郎	秋景	1892年	39.0×55.0	油彩・キャンバス
4	黒田清輝	暖き日	1897年	50.2×61.0	油彩・キャンバス
5	青木繁	太田の森	1902年	45.5×60.9	油彩・キャンバス
6	山下新太郎	白耳義の少女	1909年	41.0×33.0	油彩・キャンバス
7	梅原龍三郎	若き羅馬人	1909年	46.2×38.1	油彩・キャンバス
8	中村彝	少女裸像	1914年	80.3×65.2	油彩・キャンバス
9	木村荘八	壺を持つ女	1915年	81.7×60.4	油彩・キャンバス
10	坂本繁二郎	海岸の家	1915年	64.0×60.5	油彩・キャンバス
11	佐伯祐三	自画像	1917年	45.5×37.9	油彩・キャンバス
12	小出檜重	N 婦人像	1918年	90.8×78.0	油彩・キャンバス
13	宮脇晴	自画像	1920年	81.0×61.0	油彩・キャンバス
14	大沢鉦一郎	ジンベを着た少女	1920年	72.7×52.5	油彩・キャンバス
15	清水登之	建築現場(ワーガーデン)	1923年	76.0×96.0	油彩・キャンバス
16	神原泰	生命の流動	1924年	60.8×49.7	油彩・キャンバス
17	里見勝蔵	裸婦	1925年	79.7×115.7	油彩・キャンバス
18	前田寛治	褐衣婦人像	1925年	91.0×72.5	油彩・キャンバス
19	小出檜重	蔬菜静物	1925年	40.0×55.0	油彩・キャンバス
20	清水登之	森に憩う人	1925年	90.9×116.7	油彩・キャンバス
21	藤田嗣治	青衣の女	1925年	55.0×38.0	油彩・キャンバス
22	古賀春江	夏山	1927年	89.3×115.5	油彩・キャンバス
23	長谷川利行	酒売場	1927年	53.3×65.2	油彩・キャンバス
24	小林和作	薔薇咲くカプリ島	1928年	61.0×72.7	油彩・キャンバス
25	村井正誠	ゴルフジュアンの船	1929年	100.0×80.3	油彩・キャンバス
26	海老原喜之助	雪山と樵	1930年	116.7×62.7	油彩・キャンバス
27	満谷国四郎	裸婦	1930年	65.2×91.0	油彩・キャンバス
28	野口弥太郎	門	1931年頃	65.2×91.0	油彩・キャンバス
29	巖光	自画像	1934年	25.8×14.0	グワッシュ他・紙
30	巖光	編み物をする女	1934年	27.5×15.0	グワッシュ他・紙
31	国吉康雄	荒天	1936年	38.6×55.9	油彩・キャンバス
32	北川民次	メキシコ三童女	1937年	65.2×80.3	油彩・キャンバス
33	安井曾太郎	承徳喇嘛廟	1938年	60.0×77.5	油彩・キャンバス
34	川口軌外	二婦	1939年	161.5×130.0	油彩・キャンバス
35	矢橋六郎	武蔵野・冬・杉林	1941年	90.0×146.0	油彩・キャンバス
36	須田国太郎	夏	1942年	88.5×114.5	油彩・キャンバス
37	岡田謙三	窓辺	1948年	193.8×145.5	油彩・キャンバス
38	岡鹿之助	窓	1949年	72.0×90.0	油彩・キャンバス
39	村井正誠	天使	1950年	116.9×90.7	油彩・キャンバス
40	児島善三郎	伊豆の海	1951年	80.5×99.9	油彩・キャンバス
41	香月泰男	散歩	1953年	72.5×116.5	油彩・キャンバス
42	山口薫	ボタン雪と騎手	1953年	130.3×162.1	油彩・キャンバス
43	伊勢正義	鳩と少年	1953年	79.0×64.0	油彩・キャンバス
44	鳥海青児	うずくまる	1954年	69.0×61.0	油彩・キャンバス
45	桂ゆき	人と魚	1954年	116.0×90.8	油彩・キャンバス
46	棟方志功	華狩頌	1954年	130.5×159.5	木版・紙
47	須田国太郎	樹下	1954年	73.0×91.0	油彩・キャンバス
48	森芳雄	女たち	1954年	162.1×130.3	油彩・キャンバス
49	荻須高德	線路に沿った家	1955年	145.5×97.0	油彩・キャンバス
50	金山康喜	静物	1956年	65.6×91.0	油彩・キャンバス
51	小山田二郎	愛	1956年	130.3×193.9	油彩・キャンバス
52	瑛九	黄色い花	1957-58年	92.4×91.0	油彩・板
53	中村宏	内乱期	1958年	92.0×184.0	油彩、鉛筆、コラージュ・合板
54	オノサト・トシノブ	三つの黒	1958年	162.2×130.8	油彩・キャンバス
55	林武	ノートルダム	1960年	90.9×116.5	油彩・キャンバス

56	難波田龍起	萌	1961年	100.0×72.7	油彩・キャンバス
57	鳥海青児	石の街(ペルー マチュ・ピチュ)	1961年	62.0×73.0	油彩、グワッシュ他・キャンバス、紙
58	牛島憲之	埋れる船	1962年	72.5×116.5	油彩・キャンバス
59	森芳雄	アクロポリス	1963年	100.0×81.0	油彩・キャンバス
60	麻生三郎	胴体と頭と電球	1964年	162.0×130.3	油彩・キャンバス
61	猪熊弦一郎	マンハッタン(A)	1966年	204.3×153.2	油彩・キャンバス
62	奥谷博	貝と河豚	1966年	60.6×72.8	油彩・キャンバス
63	杉本健吉	北京紫禁城	1967年	40.8×63.4	油彩・板
64	脇田和	黄いろの鳥	1970年	91.0×72.8	油彩・キャンバス
65	杉本健吉	秘苑(昌徳宮後庭)	1971年	91.0×116.5	油彩・キャンバス
66	小磯良平	室内A	1972年	90.0×90.0	油彩・キャンバス
67	上田薫	なま玉子 G	1976年	181.0×227.0	油彩、アクリル・キャンバス
68	須田寿	寒村	1979年	80.0×100.0	油彩・キャンバス
69	糸園和三郎	丘の或る日	1979年	112.0×162.6	油彩・キャンバス
70	中村琢二	尾道水道	1986年	72.0×116.0	油彩・キャンバス
71	熊谷守一	麥畑	1939年	31.4×40.9	油彩・板
72	熊谷守一	高原ノ道	1940年	23.9×33.1	油彩・板
73	熊谷守一	小牛	1952年	23.8×33.4	油彩・板
74	熊谷守一	裸婦	1954年	33.4×24.3	油彩・板
75	熊谷守一	ハルシヤ菊	1954年	31.3×41.0	油彩・板
76	熊谷守一	西日	1955年	24.0×33.2	油彩・板
77	熊谷守一	水仙	1956年	33.3×24.0	油彩・板
78	熊谷守一	氏家桃林	1956年	31.5×40.9	油彩・板
79	熊谷守一	白仔猫	1958年	31.8×41.0	油彩・画布
80	熊谷守一	たまご	1959年	31.8×41.0	油彩・板
81	熊谷守一	雨滴	1961年	24.3×33.4	油彩・板
82	熊谷守一	白猫	1962年	24.1×33.2	油彩・板
83	熊谷守一	猫	1963年	41.0×32.0	油彩・画布
84	熊谷守一	猫	1963年	41.0×32.0	油彩・画布
85	熊谷守一	猫	1965年	24.1×33.3	油彩・板

※出品作品は全て愛知県美術館蔵。

### ●関連事業

事業名	日時、場所、講師等	参加者
講演会「愛知県美術館のコレクションについて」	5月9日(土) 13:30~15:00 / ミュージアムホール 講演者 牧野研一郎氏(愛知県美術館館長)	65人
担当学芸員によるギャラリートーク	5月23日(土)、6月6日(土) 各回 13:30~14:30 / 展示室Ⅱ	計 50人

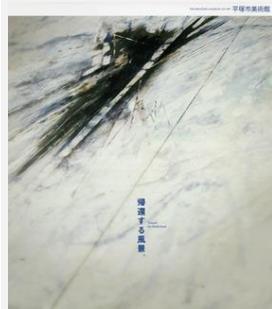
### ●主な紹介記事・番組

月日	紹介内容
4月26日(月)	「巨匠たちの逸品展示 中には「隠れた名品」も」 東京新聞
5月5日(火)	「近代日本洋画の名品 平塚市美術館で紹介」 読売新聞
5月14日(木)	「日本洋画の軌跡たどる 近代作家63人の逸品並ぶ」 神奈川新聞
5月25日(月)	「佐伯祐三らの秀作85点で「近代日本洋画の華」展」 毎日新聞

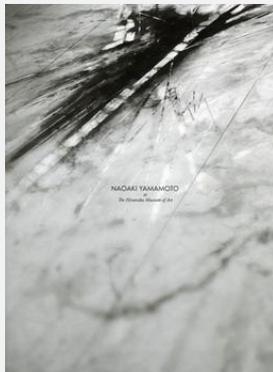
### ■ 3 山本直彰展 帰還する風景

会期：2009年7月11日(土)～9月6日(日) 開催日数 50日

種別	特集展
主催	平塚市美術館
協賛	横浜銀行 資生堂
観覧料	一般 200(140)円、高大生 100(70)円 ※各減免をのぞく
入場者数	18,302人
担当	土方明司(当館館長代理)



リーフレット  
NAOAKI YAMAMOTO 7.11 → 9.6  
山本直彰展



図録



《PIETA20071》 2007年

#### ●内容

現代日本画の世界で今最も注目を集めている画家のひとり、山本直彰(ヤマモトナオキ 1950-)の作品を紹介しました。

山本は横浜に生まれました。愛知県立芸術大学大学院日本画科を修了し、新制作協会展、創画会展に出品を続け、さらに個展での発表でも注目を集めてきました。この間、創画会賞受賞(87、89、96、97年)、東山魁夷記念日経日本画大賞で入選(02、04年)、また92-93年には文化庁芸術家在外派遣研究員としてプラハに滞在しています。

このプラハ滞りが山本の作品に大きな転機をもたらしました。「DOOR」の連作に見られるように従来の日本画の表現を乗り越え、新たな絵画の可能性を切り拓くことになったのです。以後、山本はそれまで培ってきた日本画の技法を駆使しつつも、いわゆる穏健な日本画の世界から離れ、斬新かつ新鮮な絵画を発表し続けてきました。激しくも沈鬱な画面からは画家の真摯な心情が伝わると共に、現代社会の矛盾と悲劇が重層的に刻印されています。

また「イカロス」「ピエタ」の連作では、現代に生きる人々の生と死といった深遠なテーマを大画面に表現し、強い感銘を与えます。これら神話や宗教からのインスピレーションの下に描かれる世界は、山本独自の世界といえます。さらに本展のために構想し制作された「帰還」の連作では、それまで作者の内面に去来してきたさまざまなイメージが昇華され、壮大な象徴的風景を現出させており、日本画の新しい可能性を示唆したといえるでしょう。

この展覧会は各時代の代表作に加え、本展のために描かれた新作を中心に構成しました。美術館では初めてとなる本展で、新鮮な魅力にあふれるその作品世界を展覧しました。

#### ●出品リスト

NO	作品名	制作年	サイズ(cm)	技法材料	所蔵先
1	仮面Ⅰ	1973年	116.8×91.0	岩絵具、箔、膠・麻紙	展覧会開催後当館
2	セールスマンの肖像	1985年	227.0×182.0	岩絵具、箔、膠・麻紙	展覧会開催後当館
3	M氏の肖像	1987年	181.8×227.3	岩絵具、箔、膠・麻紙	—
4	坐したる像	1988年	130.3×162.2	岩絵具、箔、膠・麻紙	展覧会開催後当館
5	東京閑人	1989年	116.6×116.6	岩絵具、箔、膠・麻紙	—
6	肖像(自画像)	1992年	65.2×53.0	岩絵具、箔、膠・麻紙	—
7	Self-portrait	1993年	200.5×89.5	和紙、岩絵具、箔、膠・木犀	—
8	Republic SquareⅠ	1993年	172.0×72.0	アクリル絵具、箔・木犀	展覧会開催後当館
9	Republic SquareⅢ	1993年	190.0×72.0	岩絵具、アクリル絵具、箔・木犀	展覧会開催後当館
10	Republic SquareⅣ	1993年	229.0×98.6	岩絵具、アクリル絵具、箔・木犀	展覧会開催後当館

11	Man, Woman, Child	1993年	195.0×87.5	アクリル絵具、箔・木犀	展覧会開催後当館
12	Ikaros	1993年	189.6×125.5	板、岩絵具、アクリル絵具、箔・木犀	展覧会開催後当館
13	Ikaros I	1993年	270.0×135.0	岩絵具、アクリル絵具、箔・キャンバス	—
14	Ikaros II	1993年	270.0×135.0	岩絵具、アクリル絵具、箔・キャンバス	—
15	Ikaros III	1993年	270.0×135.0	岩絵具、アクリル絵具、箔・キャンバス	—
16	Door S-1	1995年	201.1×253.4	木犀、岩絵具、箔、アートグルー・麻紙	—
17	Door S-2	1995年	201.1×311.0	木犀、岩絵具、箔、アートグルー・麻紙	展覧会開催後寄託
18	Door R-1	1995年	183.0×263.2	岩絵具、アートグルー・キャンバス	—
19	Door R-2	1995年	181.8×227.3	岩絵具、箔、アートグルー・キャンバス	—
20	Door D-2	1996年	287.5×521.5	岩絵具、箔、アートグルー・キャンバス	練馬区立美術館
21	Door RN-1	1996年	181.8×410.5	岩絵具、箔、アートグルー・キャンバス	—
22	Door EX	1998年	261.0×417.5	岩絵具、アートグルー・キャンバス	練馬区立美術館
23	DOOR KK-6	1999年	197.0×361.0	岩絵具、箔、アートグルー・キャンバス	—
24	IKAROS 20013	2001年	145.5×436.5	岩絵具、箔、アートグルー・キャンバス	東京都現代美術館
25	IKAROS 20014	2001年	291.0×145.5	岩絵具、箔、アートグルー・麻紙	—
26	IKAROS 901	2001年	201.0×285.5	岩絵具、箔、アートグルー・麻紙・キャンバス	展覧会開催後当館
27	IKAROS 20031	2003年	276.0×201.0	白岩絵具、箔、アートグルー・麻紙	—
28	IKAROS 20032	2003年	201.0×440.0	岩絵具、アートグルー・白麻紙、	練馬区立美術館
29	IKAROS 20043	2004年	201.0×436.0	岩絵具、箔、アートグルー・雁皮紙	—
30	PIETA 20063	2006年	227.3×181.8	岩絵具、箔、アートグルー・美濃紙	—
31	PIETA 20062	2006年	269.1×201.1	白岩絵具、箔、アートグルー・麻紙	展覧会開催後当館
32	PIETA 20071	2007年	227.3×181.8	白岩絵具、箔、アートグルー・麻紙	—
33	DOOR 200702 -ask, seek, knock	2007年	196.0 × 305.0	木犀、白岩絵具、箔、アートグルー・麻紙	—
34	Memento mori	2007年	269.1×201.0	白岩絵具、箔、アートグルー・麻紙	—
35	帰還 I	2009年	363.6×333.3	岩絵具、箔、アートグルー・薄美濃紙	展覧会開催後寄託
36	帰還 II	2009年	333.3×552.0	岩絵具、箔、アートグルー・薄美濃紙	展覧会開催後当館
37	帰還 III	2009年	333.3×460.0	岩絵具、箔、アートグルー・薄美濃紙	—
38	帰還 IV	2009年	363.6×333.3	岩絵具、箔、アートグルー・薄美濃紙	展覧会開催後当館
39	帰還 V	2009年	181.8×227.3	岩絵具、箔、アートグルー・薄美濃紙	—
40	帰還 1	2009年	77.5×54.5	木炭、パステル、鉛筆・紙	展覧会開催後当館
41	帰還 2	2009年	77.5×54.5	木炭、パステル、鉛筆・紙	展覧会開催後当館
42	帰還 3	2009年	77.5×54.5	木炭、パステル、鉛筆・紙	展覧会開催後当館
43	帰還 4	2009年	77.5×54.5	木炭、パステル、鉛筆・紙	展覧会開催後当館
44	帰還 5	2009年	54.5×77.5	木炭、パステル、鉛筆・紙	展覧会開催後当館
45	帰還 6	2009年	54.5×77.5	木炭、パステル、鉛筆・紙	—
46	帰還 7	2009年	54.5×77.5	木炭、パステル、鉛筆・紙	—
47	帰還 8	2009年	54.5×77.5	木炭、パステル、鉛筆・紙	—
48	帰還 9	2009年	54.5×77.5	木炭、パステル、鉛筆・紙	—
49	帰還 10	2009年	54.5×77.5	木炭、パステル、鉛筆・紙	—
50	帰還 11	2009年	54.5×77.5	木炭、パステル、鉛筆・紙	—
51	帰還 12	2009年	77.5×54.5	木炭、パステル、鉛筆・紙	—
52	帰還 13	2009年	77.5×54.5	木炭、パステル、鉛筆・紙	—
53	帰還 14	2009年	77.5×54.5	木炭、パステル、鉛筆・紙	—
54	帰還 15	2009年	77.5×54.5	木炭、パステル、鉛筆・紙	—
55	帰還 16	2009年	54.5×77.5	木炭、パステル、鉛筆・紙	—
56	帰還 17	2009年	54.5×77.5	木炭、パステル、鉛筆・紙	—
57	帰還 18	2009年	54.5×77.5	木炭、パステル、鉛筆・紙	—
58	帰還 19	2009年	54.5×77.5	木炭、パステル、鉛筆・紙	—
59	帰還 20	2009年	54.5×77.5	木炭、パステル、鉛筆・紙	—
60	帰還 21	2009年	54.5×77.5	木炭、パステル、鉛筆・紙	—
61	帰還 22	2009年	54.5×77.5	木炭、パステル、鉛筆・紙	—
62	帰還 23	2009年	54.5×77.5	木炭、パステル、鉛筆・紙	—
63	帰還 24	2009年	54.5×77.5	木炭、パステル、鉛筆・紙	—

●関連事業

事業名	日時、場所、講師等	参加者数
対談	7月26日(日) 15:00~16:00 / ミュージアムホール / 山本直彰氏(日本画家) × 草薙奈津子(当館館長)	140人
作家によるワークショップ「夏休み日本画体験!」	8月1日(土)、9日(土) 各回 13:00~16:30 / アトリエ / 小学生対象 / 講師: 山本直彰氏(日本画家)	29人
作家によるギャラリートーク	8月15日(土) 14:30~15:00(聞き手:担当学芸員) / 展示室II	80人

●主な紹介記事・番組

月日	紹介内容
7月28日(火)	岸桂子「展覧会 山本直彰展 穏やかで透徹した印象」 毎日新聞
8月5日(水)	田中三蔵「美術 山本直彰展 解き放たれた「まっとうな屈折」」 朝日新聞
8月7日(金)	藤島俊会「日本画の今 山本直彰展 帰還への希望と絶望」 神奈川新聞
8月26日(水)	宝玉石彦「新しい日本画が強いる緊迫感 山本直彰展」 日経新聞

●展覧会図録『日本画の今 山本直彰展』

発行年月	2009年7月
価格	1,200円
体裁	サイズ:29.7cm×22.4cm 頁数:76頁
対談	山本直彰×草薙奈津子 「絵画に精神を求めて」
テキスト	土方明司「山本直彰―帰還する風景」
図版	50点他
資料等	山本直彰年譜 文献目録 出品目録
制作	株式会社求龍堂
編集・発行	平塚市美術館

●特記

山本直彰氏はこの展覧会の業績により、2009年度芸術選奨文部科学大臣賞を受賞しました。

## ■ 4 わたしがえらんだ いわさき ちひろ展

会期：2009年7月18日(土)～8月30日(日) 開催日数 38日

種別	企画展
主催	平塚市美術館、ちひろ美術館、読売新聞東京本社
協賛	神奈川中央交通株式会社
観覧料	一般 800円(640円)、高大生 600円(480円) ※各減免をのぞく
入場者数	39,844人
担当	土方明司(当館館長代理) 安部沙耶香(当館学芸員)



リーフレット



《わらびを持つ少女》1972年ちひろ美術館蔵



《お姉さんとあかちゃん》1971年ちひろ美術館蔵

### ●内容

日本を代表する絵本画家として多くの人々に親しまれている、いわさきちひろ(1918～74)。ちひろは子どもや赤ちゃんを描くのを得意としていました。ちひろに描かれた子どもたちは、みずみずしい生命感や、やわらかで弾力にとんだからだの質感に特徴があります。ちひろは西洋で発達した水彩画に中国や日本の伝統的水墨画のにじみやぼかしの技術を生かし、パステルを線描に使うなど、絵画表現の可能性を追求し続けた画家でもありました。親しみやすいテーマをあつかいながら、その水彩の技術やデッサンのきびしさは卓越しています。

この展覧会では、ちひろ美術館の所蔵作品のなかから代表作品 120 点、ピエゾグラフ(高密度複製画)作品 8 点、貴重な遺品・書籍等を厳選して展示しました。ちひろの作品の全体像をつかめる、神奈川県内ではじめての本格的ないわさきちひろ展となりました。またこの展覧会に先立って、美術館では、お気に入りのちひろ作品とその感想など、自由なメッセージを一般から募集いたしました。「思い出にのこるあの絵、いつもそばにいてほしいこの絵」といった内容のメッセージの数々も、作品とあわせて展示し、没後 30 年以上を経た現在も、子どもから大人まで多くの人々をひきつけてやまない、いわさきちひろの魅力を紹介しました。

### ●出品リスト

NO	作品名	制作年	技法材料	書名
1	ピンクのリボンのあかちゃん	1971年	水彩、鉛筆・洋紙	『百科・赤ちゃんの育て方』
2	昼寝をするふたりの赤ちゃん	1967年	墨・洋紙	『育児の百科』
3	手を握ってもらうあかちゃん	1967年	インク・洋紙	『育児の百科』
4	指しゃぶりして眠るあかちゃん	1967年	インク・洋紙	『育児の百科』
5	母親に本を読んでもらうあかちゃん	1967年	インク、墨・洋紙	『育児の百科』
6	新聞紙で遊ぶあかちゃん	1967年	インク・洋紙	『育児の百科』
7	でんぐりがえしをしようとするあかちゃん	1965年	インク・洋紙	『家庭の教育 2/幼年期』
8	えほんをめくるあかちゃん	1965年	インク・洋紙	『家庭の教育 2/幼年期』
9	ころがって指しゃぶりをするあかちゃん	1965年	インク・洋紙	『家庭の教育 2/幼年期』
10	小公子	1966年	—	『少年少女世界の文学 23 アンデルセン童話集』
11	黄色い帽子のあかちゃん	1970年頃	鉛筆、水彩・洋紙	後期不明
12	黄色い傘の少女	1969年	水彩・洋紙	雑誌『子どものしあわせ』1969年6月号
13	小犬と雨の日の子どもたち	1967年	水彩、クレヨン、鉛筆・洋紙	雑誌『こどものせかい』1967年7月号
14	紫の雨のなかの少女	1971年	水彩、鉛筆・洋紙	雑誌『こどものせかい』1971年10月号

15	ざるそばと少女	1970年頃	水彩、鉛筆・洋紙	—
16	オレンジ色のワンピースの少女	1960年代後半	水彩、鉛筆・洋紙	—
17	フリルのついたスカートを着て、そばを食べる女の子	1964年	インク、墨汁・洋紙	ヒゲタ広告①
18	そばを食べる男の子	1964年	インク、墨汁・洋紙	ヒゲタ広告①
19	そばを食べる髪を2つに分けてリボンをつけた女の子	1964年	インク、墨汁・洋紙	ヒゲタ広告①
20	模様のあるワンピースを着たそばを食べる女の子	1964年	インク、墨汁・洋紙	ヒゲタ広告①
21	そばを食べる 横じまの入った服を着た男の子	1964年	インク、墨汁・洋紙	ヒゲタ広告①
22	そばを食べる黒シャツの男の子	1964年	インク、墨汁・洋紙	ヒゲタ広告①
23	そばを食べる黒いヘアバンドの女の子	1964年	インク、墨汁・洋紙	ヒゲタ広告①
24	はしでそばをもち上げる白いブラウスのショートカットの女の子	1964年	インク、墨汁・洋紙	ヒゲタ広告①
25	うどんを食べている髪を両側でリボンでむすんだ女の子	1965年	インク、墨汁・洋紙	ヒゲタ広告①
26	盛りそばを食べている胸に横じまの入ったセーターの男の子	1965年	インク、墨汁・洋紙	ヒゲタ広告①
27	貝と赤い帽子の少年	1970年	水彩・洋紙	—
28	貝がらと赤い帽子の少女	1967年	水彩・洋紙	名古屋精糖カレンダー1972年3/4月
29	貝がらと少年	1967年	水彩・洋紙	『あそび』1954年12月号
30	木の葉の精	1973年	水彩・洋紙	雑誌「子どものしあわせ」1973年1月号
31	りんごと天使	1964年	水彩・洋紙	雑誌『こどものせかい』1964年10月号
32	花の国の子どもたち	1964年	水彩・洋紙	絵雑誌『こどものせかい』1965年4月号
33	花の天使たち	1967年	水彩、鉛筆・洋紙	雑誌『こどものせかい』1968年1月号
34	木の葉にすわる子ども	1966年	水彩・洋紙	雑誌『こどものせかい』
35	五つぷのえんどう豆	1972年	水彩、クレヨン、鉛筆・洋紙	—
36	かんらんしゃ	1966年	水彩、鉛筆・洋紙	『あいうえおブック』1
37	水仙の花畑のうさぎたち	1969年	水彩、鉛筆・洋紙	『ペットのある暮らし』
38	自画像(27歳)	1946年9月11日	鉛筆・洋紙	スケッチ
39	顔をおおう自画像	1947年頃	インク・洋紙	スケッチ
40	神戸原のやぎ	1950年6月15日	水彩、鉛筆・洋紙	スケッチ
41	ドラムかん風呂に入る夫・善明	1950年6月16日	水彩、鉛筆・洋紙	スケッチ
42	長男・猛	1951年7月5日	水彩、鉛筆・洋紙	スケッチ
43	オーデンセ アンデルセンの家	1966年3月30日	水彩、鉛筆・洋紙	スケッチ
44	ルーブル サモトラケのニケ	1966年4月3日	水彩、鉛筆・洋紙	スケッチ
45	フィレンツェ ポンテ・ヴェッキオの夕日	1966年4月15日	水彩、鉛筆・洋紙	スケッチ
46	ローマ 猫のいる遺跡	1966年4月23日	水彩、鉛筆・洋紙	スケッチ
47	子ども	1962年	油彩・キャンバス	—
48	神戸原より田園風景をのぞむ	1950年	ビュゾグラフ	スケッチ
49	爆撃機	1973年	鉛筆、墨・洋紙	『戦火のなかの子どもたち』
50	少年	1973年	水彩、鉛筆・洋紙	『戦火のなかの子どもたち』
51	焼け跡の姉弟	1973年	鉛筆、墨・洋紙	『戦火のなかの子どもたち』
52	焔のなかの母と子	1973年	鉛筆、墨・洋紙	『戦火のなかの子どもたち』
53	汽車の窓から見る海	1973年	水彩・洋紙	『ぼちのきたうみ』
54	鏡のなかの少女	1973年	水彩・洋紙	『ぼちのきたうみ』
55	海辺で小犬と遊ぶ少女Ⅰ	1973年	墨、水彩・洋紙	『ぼちのきたうみ』
56	海辺で小犬と遊ぶ少女Ⅱ	1973年	鉛筆、墨・洋紙	『ぼちのきたうみ』
57	海辺で小犬と遊ぶ少女Ⅲ	1973年	鉛筆、墨・洋紙	『ぼちのきたうみ』
58	海辺を走る少女と小犬	1973年	水彩・洋紙	『ぼちのきたうみ』
59	おつむてん	1971年	水彩、鉛筆・洋紙	『あかちゃんのうた』習作
60	夜の国で青い鳥をつかまえるチルチルとミチル	1969年	水彩、鉛筆・洋紙	『青い鳥』
61	光のなかの妖精たち	1969年	水彩、鉛筆・洋紙	『青い鳥』
62	思い出の国の入口に立つチルチルとミチル	1969年	水彩、鉛筆・洋紙	『青い鳥』
63	光がさしこんできた森	1969年	鉛筆、水彩・洋紙	『青い鳥』
64	紫のマントを着ている冬の火のしあわせとよるこびたち	1969年	鉛筆、水彩・洋紙	『青い鳥』
65	ブドウやメロンを運んだり、機械を動かす未来の国の子ども	1969年	水彩、鉛筆・洋紙	『青い鳥』
66	麦わら帽子をかぶったおにた	1969年	水彩、鉛筆・洋紙	『おにたのぼうし』
67	雪のなかを歩いてきたおにた	1969年	水彩、鉛筆・洋紙	『おにたのぼうし』
68	洗面器を持つ女の子	1969年	水彩、鉛筆・洋紙	『おにたのぼうし』

69	戸口に立つおにた	1969年	水彩、鉛筆・洋紙	『おにたのぼうし』
70	赤飯を差し出したおにたと少女	1969年	水彩、鉛筆・洋紙	『おにたのぼうし』
71	おもちゃのピアノ	1968年	水彩・洋紙	『あめのひのおるすばん』
72	くちもとに指をそえた少女	1968年	水彩、鉛筆・洋紙	『あめのひのおるすばん』
73	あやめ	1968年	水彩・もみ紙	『あめのひのおるすばん』
74	さかさまの雨がさと 泳ぐさかなの親子	1968年	水彩・洋紙	『あめのひのおるすばん』
75	夕焼けのなかのつると娘	1966年	水彩、鉛筆・洋紙	『つるのおんがえし』
76	雪道を歩くおじいさん	1966年	水彩、鉛筆・洋紙	『つるのおんがえし』
77	鶴を助けるおじいさん	1966年	水彩、鉛筆・洋紙	『つるのおんがえし』
78	雪の日に訪ねてきた娘	1966年	水彩、鉛筆・洋紙	『つるのおんがえし』
79	はたを織る鶴	1966年	水彩、鉛筆・洋紙	『つるのおんがえし』
80	花のなかから生まれたおやゆび姫	1966年	水彩、鉛筆・洋紙	『おやゆび姫』(世界名作えほん全集⑭)
81	花びらの舟に乗るおやゆび姫	1966年	水彩、鉛筆・洋紙	『おやゆび姫』(世界名作えほん全集⑭)
82	もぐらとけがをしたつばめをみつけたおやゆび姫	1966年	水彩、鉛筆・洋紙	『おやゆび姫』(世界名作えほん全集⑭)
83	おやゆび姫を乗せて飛ぶつばめ	1966年	鉛筆、水彩・洋紙	『おやゆび姫』(世界名作えほん全集⑭)
84	花の国の王子とおやゆび姫	1966年	ピエゾグラフ	『おやゆび姫』(世界名作えほん全集⑭)
85	小犬を抱く少女	1973年	ピエゾグラフ	『ぼちのきたうみ』
86	お母さんに抱きつく子	1968年	ピエゾグラフ	『あめのひのおるすばん』
87	シクラメンの花のなかの子どもたち	1973年	ピエゾグラフ	『戦火のなかの子どもたち』
88	わらびを持つ少女	1972年	水彩、鉛筆・洋紙	『あかまんまとうげ』
89	緑の風のなかの少女	1972年	水彩・洋紙	雑誌『こどものせかい』1972年7月号
90	ぶどうを持つ少女	1973年	水彩、鉛筆・洋紙	雑誌『こどものせかい』1973年10月号
91	チューリップのなかの男の子	1965年	水彩、鉛筆・洋紙	雑誌『こどものせかい』1966年4月号
92	ききょうと子どもたち	1967年	水彩、鉛筆・洋紙	雑誌『こどものせかい』1967年9月号
93	チューリップと猫と少女	1960年代後半	水彩、鉛筆・洋紙	—
94	笛を吹く少年と本を読む少女	1960年代前半	水彩・洋紙	—
95	本を抱える少女	1970年	パステル、水彩・洋紙	雑誌『子どものしあわせ』1970年10月号
96	糸を編む少女	1972年	水彩・洋紙	雑誌『子どものしあわせ』1972年12月号
97	雪のなかを走る子ども	1970年	水彩、鉛筆・洋紙	雑誌『子どものしあわせ』11月号(発行年不詳)
98	どろんこの少年	1970年	パステル、水彩・洋紙	『強い子を育てる』
99	絵をかく女の子	1970年	ピエゾグラフ	—
100	夏の宵の白い花と子ども	1969年	水彩、鉛筆・洋紙	雑誌『子どものしあわせ』1969年7月号
101	黄色い傘のふたり	1971年	水彩、鉛筆・洋紙	ときわ相互銀行カレンダー1970年4/5/6月
102	お姉さんとあかちゃん	1971年	水彩、鉛筆・洋紙	—
103	水仙とつくしをみる子ども	1960年代後半	鉛筆、水彩・画用紙	中期不明
104	ストーブとふたりの子ども	1960年代後半	水彩、鉛筆・画用紙	中期不明
105	ゆびきりをする子ども	1966年	ピエゾグラフ	『あいうえおブック』1
106	海辺の小鳥	1972年	水彩・洋紙	教科書『改訂標準こくご』
107	世界中の子どもみんなに平和としあわせを	1970年	パステル・洋紙	—
108	母の日	1972年	ピエゾグラフ	雑誌『こどものせかい』
109	赤い糸帽の少女	1972年	水彩・洋紙	『ゆきのひのたんじょうび』
110	カナリヤと青い帽子の子ども	1971年	水彩、鉛筆・洋紙	—
111	水着の女の子	1970年	パステル、洋紙	—
112	楽器を鳴らす子どもたち	1957年	水彩、パステル・洋紙	『みんなでしようよ』
113	のぼり棒	1970年	鉛筆、水彩・洋紙	教科書『しょううがくしゃかい』
114	かけっこ	1970年	水彩、鉛筆・洋紙	教科書『しょううがくしゃかい』
115	ことしのぼたん	1965年	水彩・洋紙	『あいうえおブック』1
116	十五夜の月	1965年	水彩、鉛筆・洋紙	『あいうえおブック』1
117	身体測定	1966年	水彩、鉛筆・洋紙	『あいうえおブック』1
118	はないちもんめ	1958年	水彩、クレヨン、鉛筆・洋紙	『キンダーブック』1月号(発行年不詳)
119	ねぎぼうずと麦と子どもたち	1960年代半ば	水彩・洋紙	中期不明
120	ランドセルをしょって並んで歩く1年生	1966年	水彩・画用紙	ママの心得

121	スイートピーとフリージアと少女	1963年	水彩、鉛筆・洋紙	雑誌『子どものしあわせ』1963年3・4月号
122	チューリップのある少女像	1973年	水彩、鉛筆・洋紙	雑誌『子どものしあわせ』1974年3月号
123	立てひざの少年	1970年	パステル、水彩・洋紙	雑誌『子どものしあわせ』1974年6月号
124	すすきと夕焼け	1972年	水彩・洋紙	教科書『改訂標準こくご』
125	横顔の少年	1970年	パステル、水彩・洋紙	『とべたら本こ』(新装版)
126	赤いくつ	1960年	水彩・洋紙	『トッパンのこども絵本おはなしえほん』習作
127	マッチをともす少女	1964年	水彩・洋紙	世界のどうわ1『アンデルセンどうわ』
128	おじいさんとハイジ	1960年	鉛筆、水彩・洋紙	児童世界文学全集『アルプスの少女』

### ●関連事業

事業内容	日時、場所、講師等	参加者
特別講演会	7月19日(日) 14:00-15:00/ミュージアムホール 講演者:松本猛氏(安曇野ちひろ美術館館長)	240人
ワークショップ「ちひろの水彩技法・にじみ体験!! 缶バッジをつくろう!!」	8月11日(火) 13:00~15:00/アトリエ 担当:六島芳朗(当館職員)	23人
ワークショップ「ちひろの水彩技法・にじみ体験!! 缶バッジをつくろう!!」	8月14日(金)、15日(土)、16日(日) 13:00~15:00/アトリエ 担当:中学生ボランティア、六島芳朗(当館職員)	470人
担当学芸員によるギャラリートーク	7月23日(日)、8月26日(日) 各回14:00~14:30/展示室I	150人
いわさきちひろ絵本読み聞かせ	8月6日、13日、20日、27日(毎週木曜日) 各回15:00~(30分程度) /博物館展示室古民家	—
おはなし会「いわさきちひろの絵本」	8月5日、12日、19日、26日(毎週水曜日) 各回15:30~16:00/中央図書館子ども室	—

### ●主な紹介記事・番組

月日	紹介内容
5月1日(金)	「ちひろ作品へのメッセージ募集 平塚市美術館」 読売新聞
5月22日(金)	「わたしがえらんだ いわさきちひろ展 平塚市美術館でメッセージを募集」 湘南ホームジャーナル1367号
7月2日(木)	「県内初の本格的なちひろ展 山田洋次さんらのメッセージも」 タウンニュース1107号
7月7日(火)	安部沙耶香「いわさきちひろ展④ 「わらびをもつ少女」幼い日の経験 投影」 読売新聞
7月8日(水)	安部沙耶香「いわさきちひろ展⑤ 「おつむてんてん」母親の慈愛あふれる」 読売新聞
7月15日(水)	「わたしがえらんだ いわさきちひろ展」 カフェ湘南よみうり vol. 21
7月19日(日)	「県内初、本格的「ちひろ」展開幕 少年、少女に帰る」 東京新聞
7月19日(日)	「ちひろ展 平塚で開幕」 読売新聞
7月24日(金)	「県内初の本格的な展覧会 わたしがえらんだ いわさきちひろ展」湘南ホームジャーナル1376号
7月26日(日)	宮田徹也「瞳の中に希望の光 わたしがえらんだ いわさきちひろ展」 新かながわ2046号
8月	「県内初の大型ちひろ展 120点の作品展示は希少」 定年時代8月号
8月11日(火)	「ちひろの遺品も」 神奈川新聞
8月20日(木)	「好調「いわさきちひろ展」市内外から1万5千人」 タウンニュース1114号
8月20日(木)	「いわさきちひろ作品展2万人目」 神奈川新聞
8月22日(土)	「ちひろ展2万人」 読売新聞
8月28日(金)	「いわさきちひろ企画展が人気 3万人突破歴代3位に」 神奈川新聞
9月2日(水)	「ちひろ展3万9844人 平塚市美術館最多」 読売新聞
9月2日(水)	「平塚市美術館企画展 入場者数塗り替え いわさきちひろ展」 神奈川新聞
9月2日(水)	「歴代1位の入場者」 東京新聞
9月3日(木)	「いわさきちひろ展 歴代1位に」 タウンニュース1116号

## ■ 5 カー・デザインの歴史—NISSAN 情熱と機能の美—

会期：2009年10月3日(土)～11月29日(日) 開催日数 50日

種別	企画展
主催	平塚市美術館
特別協力	日産自動車株式会社
協力	株式会社東芝、株式会社カースタイリング出版、オー・デザインコレクション
協賛	神奈川中央交通株式会社
観覧料	一般 800(640)円、高大生 500(400)円 ※各減免をのぞく
入場者数	13,829人
担当	勝山滋(当館学芸員)



《チラシ》



《図録》



《展示風景》

### ●内容

自動車は現代の基幹産業であり、われわれの生活必需品として身近な存在といえるでしょう。しかしながら、まず最初に目に入るそのデザインについてひもといた展覧会はこれまであまり見られませんでした。本展では日産自動車株式会社の特別協力をいただき、公立美術館で初めて、ひとつの国産メーカーのデザインを年代を追って俯瞰し、欧米に学んでいた黎明期から日本発のデザインを世界に発信する現代に至るまでの変遷を、スカイライン、フェアレディZといった歴代の名車展示に加え、普段目にするのできないクレイモデル、スケールモデル、デザイン画とあわせて紹介しました。

### ●出品リスト

NO	車種・作品名	発売・制作年	寸法(全長・全幅・高さ)(cm)	所蔵先
1	ダットサン(113型)	1956年	386.0×146.6×154.0	日産自動車(株)
2	シルビア(CSP311型)	1966年	398.5×151.0×127.5	日産自動車(株)
3	サニー1000 デラックス(B10型)	1966年	382.0×144.5×134.5	日産自動車(株)
4	スカイライン(C10型)	1968年	423.5×159.5×139.0	日産自動車(株)
5	ブルーバード 1600SSS クーペ(510型)	1969年	412.0×156.0×138.5	日産自動車(株)
6	フェアレディ Z432(S30型)	1969年	411.5×163.0×129.0	日産自動車(株)
7	フェアレディ 1500(SP310型)1/4スケールモデル	1962年	97.7×37.4×31.9	日産自動車(株)
8	シルビア(CSP311型)1/4スケールモデル	1966年	99.6×37.7×31.9	日産自動車(株)
9	カーデザインの変遷/国産代表車種の写真展示(1950年代～現代)	—	—	日産自動車(株)
10	中型セダンの変遷/パネル・写真展示	—	—	日産自動車(株)
11	ダットサン 112型(水彩画)	1956年頃	37.0×55.5	日産自動車(株)
12	ダットサン 110型 設計起案図	1953年	25.5×38.8	日産自動車(株)
13	ダットサン 310型の前身となった開発コード"48X"のスケッチ	1959年頃	35.5×55.5	日産自動車(株)
14	ダットサン 310型に直接つながった開発コード"107X"のスケッチ	1959年頃	37.8×54.0	日産自動車(株)

15	サファリラリー用のカラーリング案	1966年頃	33.0×48.4	日産自動車(株)
16	フロントフェイスの検討スケッチ	1959年頃	28.2×36.4	日産自動車(株)
17	ブルーバード510型スケッチ	1967年頃	35.6×28.0	日産自動車(株)
18	ブルーバード510型スケッチ	1967年頃	30.0×42.0	日産自動車(株)
19	ブルーバード510型(開発写真一式)	1967年頃	—	日産自動車(株)
20	日産ジュニアのスケッチ	1956年	41.0×50.5	日産自動車(株)
21	ニッサン480トラックのスケッチ	1953年	26.8×40.0	日産自動車(株)
22	ニッサン483トラックのスケッチ	1950年代	32.0×47.4	日産自動車(株)
23	ダットサン・コマーシャル・セダンのスケッチ	1950年代	23.3×34.8	日産自動車(株)
24	ダットサン・コマーシャル・セダンのスケッチ	1950年代	22.5×36.0	日産自動車(株)
25	ダットサン20のスケッチ	1950年代	27.0×28.5	日産自動車(株)
26	デザイナーがアートセンタースクールでの研修時にハイライト技法で描いたスケッチ	1957年	36.0×55.5	日産自動車(株)
27	ハイライト描法で描かれた風景画	1960年頃	38.0×50.0	日産自動車(株)
28	ハイライト描法で後年に描かれたダットサン210型のスケッチ	—	48.0×61.0	日産自動車(株)
29	ハイライト描法で描かれたC110型のインテリアスケッチ	1972年	27.7×37.7	日産自動車(株)
30	伊ピニンファリーナ社に委託したセドリック130型のスケッチ	1962年頃	42.5×57.0	日産自動車(株)
31	伊ピニンファリーナ社に委託したセドリック130型のスケッチ	1962年	53.0×82.0	日産自動車(株)
32	初代レパードのスケッチ	1980年	27.0×76.0	日産自動車(株)
33	ブルーバードU12型のスケッチ	1987年	36.5×79.0	日産自動車(株)
34	フェアレディZ S130型のスケッチ(1978年発売)	1978年	60.6×81.5	日産自動車(株)
35	プリメーラ P10型のスケッチ(1990年発売)	1990年	50.5×75.5	日産自動車(株)
36	セフィーロ A32型のスケッチ(1994年発売)	1994年	52.5×76.5	日産自動車(株)
37	Be-1のスケッチ(1987年発売)	1987年	39.0×53.5	日産自動車(株)
38	初代クエストのインテリアスケッチ	1993年	58.0×88.0	日産自動車(株)
39	ブルーバード910型のスケッチ	1979年	38.4×54.0	日産自動車(株)
40	1990年代後半の先行デザイン開発の中で描かれたスケッチ	1990年代	38.1×54.0	日産自動車(株)
41	フェアレディ SP310型のスケッチ	1962年	33.0×56.0	日産自動車(株)
42	フェアレディ Z S30型開発段階のスケッチ(デザイン画、写真)	1969年	13.0×18.0	日産自動車(株)
43	フェアレディ Z S130型のスケッチ	1978年	56.0×78.4	日産自動車(株)
44	フェアレディ Z Z31型のスケッチ	1983年	36.6×77.5	日産自動車(株)
45	フェアレディ Z Z31型のスケッチ(写真)	1983年	20.2×25.4	日産自動車(株)
46	フェアレディ Z Z31型のスケッチ(フロントビュー1/1レンダリング、写真)	1983年	20.2×25.4	日産自動車(株)
47	フェアレディ Z Z32型のスケッチ	1989年	54.5×77.0	日産自動車(株)
48	フェアレディ Z Z32型のスケッチ	1989年	54.5×77.0	日産自動車(株)
49	フルサイズレンダリング(フェアレディ Z Z32型)	1989年	124.5×431.0	日産自動車(株)
50	モデリング技術の変遷(トースカン、油土など道具類一式)	—	—	日産自動車(株)
51	モデリング技術の変遷(モデラー工具、工業用粘土一式)	—	—	日産自動車(株)
52	スカイライン C210型のフロントビュー検討用スケッチ	1977年	29.8×39.5	日産自動車(株)
53	スカイライン C210型のフロント・リアビュー検討用スケッチ	1977年	29.8×39.0	日産自動車(株)
54	スカイライン R34型 GT-Rのスケッチ	1999年	27.0×38.2	日産自動車(株)
55	電気蓄音機 RG-700(日本コロムビア)	1952年	—	オー・テ・ザ・コレクション
56	卓上扇(松下電器産業)	1952年	—	オー・テ・ザ・コレクション
57	ラジオ「ナショナル DX-350」(松下電器産業)	1953年	—	オー・テ・ザ・コレクション
58	電気釜 RC-10K形(東芝)	1955年	—	オー・テ・ザ・コレクション
59	8ミリカメラ 8 T(キヤノン)	1957年	—	オー・テ・ザ・コレクション
60	トランジスタラジオ TR-610(ソニー)	1957年	—	オー・テ・ザ・コレクション
61	フィルムカメラ「ニコン SP」(ニコン)	1957年	—	個人蔵
62	スプリングカメラ「パールIV」(コニカ)	1958年	—	個人蔵
63	トランジスタテレビ 8-301(ソニー)	1960年	—	オー・テ・ザ・コレクション
64	テレビ嵯峨 TC-96G(松下電器産業)	1965年	—	オー・テ・ザ・コレクション
65	ウォークマン TPS-L2(ソニー)	1979年	—	オー・テ・ザ・コレクション
66	オリンパス XA(オリンパス)	1979年	—	オー・テ・ザ・コレクション
67	ファミリーコンピュータ(任天堂)	1983年	—	オー・テ・ザ・コレクション

68	初代チームデミ(文具、プラス)	1984年	—	カー・デザ インコレクション
69	写ルンです(フジフィルム)	1986年	—	カー・デザ インコレクション
70	携帯電話(NTT TZ-803)	1988年	—	カー・デザ インコレクション
71	H i 8 液晶ビューカム VL-HL 1 (シャープ)	1992年	—	カー・デザ インコレクション
72	AIBO ERS-111(ソニー)	1999年	—	カー・デザ インコレクション
73	LC13C1-S AQUOS(シャープ)	2001年	—	カー・デザ インコレクション
74	i Pod(Apple)	2002年	—	カー・デザ インコレクション
75	マーチ(K12型)1/4スケールモデル	2002年	92.0×42.0×37.7	日産自動車(株)
76	キューブ(Z11型)1/4スケールモデル	2002年	93.5×41.7×41.0	日産自動車(株)
77	ティータ(C11型)1/4スケールモデル	2004年	105.0×41.4×37.4	日産自動車(株)
78	CI マーカー式	—	—	日産自動車(株)
79	エンブレム式	—	—	日産自動車(株)
80	真鍮でできた小型車FIGAROの1/5スケールモデル	1991年	74.8×32.6×27.3	日産自動車(株)
81	フェアレディZ 300Zの室内データをもとに木材で造られた再現モデル	—	89.0×107.0×51.0	日産自動車(株)
82	Be-1の板金習作	1987年	90.9×39.5×34.9	日産自動車(株)
83	サッカーボール・サッカーシューズ(工業用クレイによる造形)	—	—	日産自動車(株)
84	盆栽(クレイによる造形)	—	—	日産自動車(株)
85	Jump out!(クレイによる犬の造形)	—	—	日産自動車(株)
86	クレイによる相撲	—	—	日産自動車(株)
87	クレイによるまわし	—	—	日産自動車(株)
88	フェアレディ Z(Z34型、フルサイズクレイモデル)	2008年	425.0×184.5×131.5	日産自動車(株)
89	ムラーノ(Z51型、1/4クレイモデル)	2008年	120.6×47.4×42.5	日産自動車(株)
90	デジタル開発体験コーナー(映像)	—	—	日産自動車(株)
91	電気自動車 LEAF(1/4スケールモデル)	2009年	111.1×44.2×38.7	日産自動車(株)
92	コンセプトカーPIV02	2007年	260.0×169.0(～ 220.0)×170.0	日産自動車(株)
93	コンセプトカーPIV0	2005年	270.0×160.0×166.0	日産自動車(株)
94	キューブ(Z12型、1/4スケールモデル)	2008年	97.2×42.4×42.2	日産自動車(株)
95	GT-R PROTO(1/4スケールモデル)	2005年	116.2×47.4×34.2	日産自動車(株)
96	ランドグライダー(1/1クレイモデル)	2009年	—	日産自動車(株)
97	同インテリアモデル	2009年	—	日産自動車(株)
98	MIXIM	2007年	—	日産自動車(株)

### ●プレ展示 展示室前に1/4スケール・モデルを公開

本展覧会のプレ展示として、マーチ(K12型)、ティータ(C11型)、キューブ(Z11型)の精巧な1/4スケールモデルを公開しました。



《展示風景》

### ●関連事業

事業名	日時、講師、場所等	参加者
特別講演会「カー・デザインの歴史と未来」	10月3日(土) 13:30～15:00 / 講演者: 中村史郎氏(カーデザイナー・日産自動車株式会社常務執行役員・チーフクリエイティブオフィサー) / ミュージアムホール	200人
ワークショップ「日産デザイン わくわくスタジオ」(スケッチ体験)	10月10日(土)、24日(土) 各回: 午前の部: 10:00～12:00 / 午後の部: 13:30～15:30 小中学生対象 / 講師: 日産カーデザイナー / アトリエ	56人

ワークショップ「キミだけのクルマをつくろう!」(クレイモデル体験)	11月14日(土)、21日(土) 各回：午前の部：10:00～12:30 / 午後の部：13:30～16:00 小中学生対象／講師：日産クレイモデラー／アトリエ	63人
日産 OB「かたちの会」メンバーによる座談会(全3回)	<b>10月17日(土)「ブルーバードを語る」</b> メンバー：内野輝雄氏、佐野勇夫氏、境田潤氏 <b>10月31日(土)「フェアレディZ」を語る</b> メンバー：飯塚英博氏、木村一男氏、吉田章夫氏 <b>11月28日(土)「スカイラインを語る」</b> メンバー：森典彦氏、八木沼秀夫氏、鈴木潔氏 各回 14:00～15:30／聞き手：勝山滋(当館学芸員／ミュージアムホール)	365人

### ●主な紹介記事・番組

月日	紹介内容
4月18日(土)	「日産車4分の1の大きさ」 読売新聞
4月22日(水)	「日産車の魅力を4分の1に凝縮」 朝日新聞
8月15日(土)	「カーデザインの歴史」 『たわわ』 No. 71
9月1日(火)	「NEWS」 『Pole Pole(日産車体社内報)』
9月1日(火)	「公立美術館では初となる国産車デザインの歴史展」 『ノスタルジックヒーロー』
9月10日(木)	「カーデザインの歴史展」 『リベルタ』
9月16日(水)	「国産車のデザイン 歴史ひもとく展示会」 『神静民報』
9月20日(日)	「News&Topics」 『デザイン・リサーチ』 Vol. 5
9月21日(月)	「カーデザインの歴史」 『新美術新聞』
9月25日(金)	「「国産」の機能美 探る」 『タウンニュース』 1119号
10月1日(木)	「Whats New」 『NAVI』
10月1日(木)	「Present」 『湘南よみうり』
10月1日(木)	「わくわくイベント情報」 『しお風』
10月1日(木)	「カマク・ラタン」 『かまくら春秋』 474号
10月2日(金)	「しょうなん見聞遊学 カーデザインの歴史～NISSAN 情熱と機能の美」 『神奈川新聞』
10月2日(金)	「美術館・ギャラリー」 『ぼど』 No. 483
10月4日(日)	石川美邦「往年の「かっこいい」再現」 『神奈川新聞』
10月5日(月)	「美術 カー・デザインの歴史—NISSAN 情熱と機能の美—」 『定年時代』
10月8日(木)	「Catch Art 日本が誇る自動車産業 デザイン面から見つめなおす展覧会」 『ぴあ』
10月10日(土)	「往年の名車から近未来車まで「カー・デザインの歴史」」 『リビング平塚』
10月10日(土)	「カーデザインの歴史」 『湘南新聞』 1775号
10月12日(月)	「LE 和 RAKU そのほかのおすすめカルチャーニュース」 『和楽』 11月号
10月15日(木)	「戦後の名車ズラリ 平塚市美術館」 『産経新聞』
10月20日(火)	「日産車デザインの魅力紹介」 『読売新聞』
10月23日(金)	「(記事名不明)」 『湘南ジャーナル』
10月24日(土)	加藤木信夫「小型電気自動車を粘土モデルで体感」 『東京新聞』
10月24日(土)	渡辺明博「実物大クレイモデル展示」 『毎日新聞』
10月25日(日)	「Museum Info」 『アーティクル』
10月31日(土)	「クローズアップ」 『スタイルワゴンクラブ』 143号
11月	勝山滋「美の倉《ダットサン112型スケッチ》」 『青淵』
11月1日(日)	「日産のデザイン史を振り返る」 『SANKEI EXPRESS』
11月1日(日)	「美術館特別展 カーデザインの歴史 NISSAN 情熱と機能の美」 『広報ひらつか』
11月1日(日)	「art」 『プラチナサライ』 11月1日号
11月1日(日)	「Whats New」 『NAVI』
11月4日(水)	渡辺明博「平塚市美術館でカーデザイン展」 『毎日新聞』
11月6日(金)	「知的好奇心を満たす秋のミュージアム」 『湘南ホームジャーナル』 1390号
11月13日(金)	渡辺英明「カーデザインの歴史展」 『朝日小学生新聞』
2010年1-2月	Wim Oude Weernink「Nissan Exhibition JAPANESE ROOTS」 『Auto&Design』 No. 180

## ■ 6 秋の所蔵品展 戦後美術の多様な表現

会期：2009年9月18日(金)～11月29日(日) 開催日数 64日

種別	特集展
主催	平塚市美術館
観覧料	一般 200(140)円、高大生 100(70)円 ※各減免をのぞく
入場者数	5,484人
担当	小池光理(当館学芸員)



勝呂忠 《古代幻想》(3点組のうち1点)



佐藤多持 《水芭蕉》



林辺正子 《レリーフ I (レンガ状)》

### ●内容

秋の所蔵品展では「戦後美術の多様な表現」と題して、主に抽象的な絵画の可能性を求めた作家たちの作品40点をご紹介します。戦後の日本は敗戦でスタートしましたが、日本人のたゆまぬ努力でついに高度成長期を迎えて、社会が一変しました。この時代の変化に伴い、美術の世界では多様な表現が試されました。こうしたなかで、戦前より大きな流れとなった「抽象絵画」があります。現実を「写實的」に描くのではなく、「抽象的」にとらえて、より自由な創造行為を求める抽象絵画(アブストラクト・アート)は、戦後はばひろい展開をみせることになります。絵画の線や色、面やかたちといった要素にこだわり、幾何学的な構成をした作品や、あるいは描くという行為の生命感そのものを表現した作品が登場しました。戦後生まれの作家たちはまた、あるモチーフを様々にとらえて「もの」の存在感に迫るコンセプチュアルな試みを行っています。

この特集展では、瀬島好正(セジマヨシナリ)や佐藤多持(サトウタマサ)、勝呂忠(カトルダシ)といった1910～20年代生まれの作家たち、また飯室哲也(イムロテツヤ)や林辺正子(ハシノマサコ)などの1940年代生まれの作家たちの作品により、その絵画表現の試みを展覧しました。

### ●出品リスト

NO	作家名	作品名	制作年	サイズ(cm)	技法材料
1	藤間清	ルーフトップアビニョン	1985年	91.0×117.0	油彩・キャンバス
2	藤間清	無題	1989年	132.0×163.0	油彩・キャンバス
3	藤間清	無題	不詳	80.0×100.0	油彩・キャンバス
4	勝呂忠	パンドラ	1953年	91.1×116.7	油彩・キャンバス
5	勝呂忠	イーP	1962年	69.0×99.0	油彩、樹脂・キャンバス
6	勝呂忠	イーM	1962年	69.7×50.0	油彩、樹脂・キャンバス
7	勝呂忠	古代幻想(3点組のうち)	1967年	227.5×182.5	油彩・キャンバス
8	勝呂忠	古代幻想(3点組のうち)	1967年	227.7×146.3	油彩・キャンバス
9	勝呂忠	古代幻想(3点組のうち)	1967年	227.5×182.5	油彩・キャンバス
10	柴田周一	Space 79-6	1979年	130.4×162.2	アクリル・キャンバス
11	柴田周一	Space 79-4	1979年	130.4×162.2	アクリル・キャンバス
12	柴田周一	blank 80-5	1980年	91.2×116.8	アクリル・キャンバス
13	土井俊泰	作品イ	1960年	183.0×152.0	油彩・キャンバス

14	土井俊泰	作品ニ	1960年	181.5×151.5	油彩・キャンバス
15	瀬島好正	ひろば	1965年	193.0×129.0	油彩・キャンバス
16	瀬島好正	黄	1965年頃	160.4×129.4	油彩・キャンバス
17	瀬島好正	黄・茶	1973年	227.0×181.0	油彩・キャンバス
18	佐藤多持	水芭蕉	1954年	91.2×62.0	油彩・キャンバス
19	佐藤多持	水芭蕉に関する作品3	1960年	89.6×130.4	墨、彩色、箔・紙
20	佐藤多持	作品 曲12	1957年	65.2×90.8	彩色・紙
21	鶴澤明民	生成A	1998年	29.7×21.0	ドローイング・紙
22	鶴澤明民	生成B	1998年	29.7×21.0	ドローイング・紙
23	鶴澤明民	生成(余白に向って)	2000年	21.0×29.7	ドローイング・紙
24	飯室哲也	Memory	1996年	29.7×20.3	木版、手彩色・紙
25	飯室哲也	水平・垂直	1996年	20.3×28.7	木版、空摺り、焼き線、手彩色・紙
26	飯室哲也	弧のように	1997年	20.3×29.7	木版、空摺り、木綿糸・紙
27	飯室哲也	トライアングルの泉	1998年	20.3×29.7	木版、空摺り・紙
28	宮下圭介	Veil P-1	1997年	20.5×15.0	シルクスクリーン・紙
29	宮下圭介	Veil P-9	2000年	15.0×20.5	シルクスクリーン・紙
30	宮下圭介	上層のホワイト	2003年	41.0×31.8	シルクスクリーン・紙
31	稲憲一郎	Flow	2000年	21.2×29.7	ドライポイント、木版・紙
32	稲憲一郎	Flow-II	1998年	29.7×21.0	ドライポイント・紙
33	稲憲一郎	Flow-I	1998年	21.0×29.7	ドライポイント・紙
34	稲憲一郎	oval in blue	1999年	29.8×21.0	ドライポイント、木版・紙
35	稲憲一郎	Oval	1996年	29.5×21.0	ドライポイント・紙
36	林辺正子	レリーフⅠ(レンガ状)	2002年	28.0×38.5×5.0	鉛、木
37	林辺正子	レリーフⅡ(あかめ)	2002年	28.0×38.5×5.0	鉛、木
38	林辺正子	レリーフⅢ	2002年	28.0×38.5×5.0	鉛、木
39	林辺正子	レリーフⅣ	2002年	28.0×38.5×5.0	石膏、木
40	木村一生	鯛(モウ)	1996年	259.0×194.0	油彩・キャンバス

※出品作品は全て当館所蔵。

●関連事業

事業名	日時、場所、講師等	参加者
担当学芸員によるギャラリートーク	10月25日(日)、11月22日(日) 各回14:00~14:30 / 展示室Ⅱ	計4人

## ■ 7 冬の所蔵品展 祈りのかたち

会期：2009年12月8日(日)～2010年2月7日(日) 開催日数 48日

種別	特集展
主催	平塚市美術館
観覧料	一般200(140)円、高大生100(70)円 ※各減免を除く
入場者数	2,003人
担当	小池光理(当館学芸員)



シルヴィア・ミニオ＝パルウエルロ・保田  
《樹下に遊ぶ幼子イエスと聖母》



《展示風景》



《展示風景》

### ●内容

冬の所蔵品展では「祈りのかたち」と題して、聖書や仏典の情景を描いたもの、あるいは深い宗教性をたたえた作品を紹介しました。

太古の時代から、人々は果てしない天空や身のまわりの自然の中に神の存在を感じ、それを詩や音楽、絵画など様々な形で表現してきました。そして世界宗教となったキリスト教や仏教が語る豊かな精神世界は、時代や国を超えて、多くの芸術家のインスピレーションの源となってきました。

この特集展では、日常生活に温かい眼差しを注ぎながら、キリスト教の信仰心のもと、そこに“神の在る世界”を見出して制作を行った彫刻家、シルヴィア・ミニオ＝パルウエルロ・保田(1934-2000)の彫刻やエスキースの数々を展示しました。また、イタリアで目にしたフレスコ画やキリスト教の地下墓地(カタコンベ)の壁画と、日本の仏画に共通性を見出して、静謐で叙情的な空間を描いた有元利夫(アリモトシオ 1946-85)の作品、東洋の宗教世界を、独自の解釈で描いた工藤甲人(イトウカキヲ 1915-)や伊藤彬(イトウキキヲ 1940-)の作品、また山本直彰(ヤマモトオキ 1950-)の日本画の技法で描かれた「ピエタ」、世界各地の神の使いを描いた菅野陽(カノノウ 1919-95)の銅版画シリーズ《天使と飛天と》など、人間のもつ神の世界への憧れを、当館所蔵の優れた作品53点により展覧しました。

### ●出品リスト

NO	作家名	作品名	制作年	サイズ(cm)	技法材料
1	シルヴィア・ミニオ＝パルウエルロ・保田	修道士	1960年代	41.4×46.8	コンテ、ガッシュ・紙
2	シルヴィア・ミニオ＝パルウエルロ・保田	修道士ガリレオ・ニコリーニの肖像	1960年代	-	鉛筆・紙
3	シルヴィア・ミニオ＝パルウエルロ・保田	修道士ガリレオ・ニコリーニの肖像	1960年代	-	鉛筆、色鉛筆・紙
4	シルヴィア・ミニオ＝パルウエルロ・保田	祖母とフランシスコ会修道士	1960年代	-	インク、鉛筆・紙
5	シルヴィア・ミニオ＝パルウエルロ・保田	姉弟	1960年代	-	コンテ・紙
6	シルヴィア・ミニオ＝パルウエルロ・保田	自画像	1970年代	-	インク・紙
7	シルヴィア・ミニオ＝パルウエルロ・保田	聖職者(他)	1970年代	-	鉛筆、コラージュ・紙
8	シルヴィア・ミニオ＝パルウエルロ・保田	過越祭の燭台(他)	1970年代	-	インク、鉛筆、コラージュ・紙
9	シルヴィア・ミニオ＝パルウエルロ・保田	祭壇(他)	1970年代	-	インク、鉛筆、色鉛筆・紙
10	シルヴィア・ミニオ＝パルウエルロ・保田	子供に耳を傾ける聖職者	1970年代	-	インク、鉛筆・紙
11	シルヴィア・ミニオ＝パルウエルロ・保田	横たわる母と子(他)	1970年代	-	インク、鉛筆・紙

12	シルウ°イア°ミオ°パ°ルウエルロ°保田	母子像(他)	1970年代	-	インク、鉛筆・紙
13	シルウ°イア°ミオ°パ°ルウエルロ°保田	聖母子像(他)	1970年代 初期	-	インク・紙
14	シルウ°イア°ミオ°パ°ルウエルロ°保田	樹下に遊ぶ幼子イエスと聖母	1970年代	70.2×48.3×65.0	木彫、彩色
15	シルウ°イア°ミオ°パ°ルウエルロ°保田	カトリック平塚教会のための聖母子像	1990年代	-	インク・紙
16	シルウ°イア°ミオ°パ°ルウエルロ°保田	羊の毛刈り	1970年代	-	インク、色鉛筆、ガ ッシュ・紙
17	シルウ°イア°ミオ°パ°ルウエルロ°保田	洗 足	1970年代	-	インク・紙
18	シルウ°イア°ミオ°パ°ルウエルロ°保田	聖女生涯の浮彫り 第四場面 構想図	1980年代	-	インク、鉛筆・紙
19	シルウ°イア°ミオ°パ°ルウエルロ°保田	聖女生涯の浮彫り 第五場面 構想図	1980年代	-	インク、墨・紙
20	シルウ°イア°ミオ°パ°ルウエルロ°保田	聖女生涯の浮彫り 第六場面 構想図	1980年代	-	インク・紙
21	シルウ°イア°ミオ°パ°ルウエルロ°保田	聖カタリナの生涯	1980年代	各 105.6×29.2	ブロンズ
22	シルウ°イア°ミオ°パ°ルウエルロ°保田	聖女生涯の浮彫り 構想図	1980年代	-	インク、鉛筆・紙
23	シルウ°イア°ミオ°パ°ルウエルロ°保田	聖女生涯の浮彫り 構想図	1980年代	-	インク、鉛筆、色鉛 筆・紙
24	シルウ°イア°ミオ°パ°ルウエルロ°保田	聖女生涯の浮彫り 構想図	1980年代	-	インク、鉛筆・紙
25	山中雪人	磔 刑	1998年	162.0×260.0	墨、金・紙
26	山中雪人	洗 礼	1996年	162.0×260.0	墨、金・紙
27	パウル・ヴンダーリッヒ	アダムとイヴ	1981年	83.0×64.0	リトグラフ・紙
28	パウル・ヴンダーリッヒ	イヴ罪深い行いを始める	1970年	77.3×58.5	リトグラフ・紙
29	パウル・ヴンダーリッヒ	アダム知恵の木に掴まる	1970年	76.5×58.4	リトグラフ・紙
30	山本直彰	ピエタ 20062	2006年	269.1×201.1	彩色・紙
31	津田一江	Notre Dame de Paris ゆふさり	2003年	161.0×129.0	彩色・紙
32	伊藤彬	タ オ	1996年	180.0×120.0	墨、木炭、彩色・紙
33	伊藤彬	夢のいりぐち	1987年	180.0×240.0	彩色・紙
34	伊藤彬	声 明	1999年	221.0×176.0	墨・紙
35	工藤甲人	横たわる聖樹	1957年	32.5×47.0	彩色・紙
36	工藤甲人	寂光土	1994年	197.0×160.0	彩色・紙
37	工藤甲人	須弥山	1962年	44.8×37.0	彩色・紙
38	有元利夫	青い婦人	1974年	37.9×45.5	油彩・キャンバス
39	有元利夫	夜のカーテン	1980年	90.9×72.7	油彩・キャンバス
40	有元利夫	追 憶	1976年	33.3×53.0	油彩・キャンバス
41	菅野陽	キューピッドとプシケ ギリシャ 前4世紀	1978年	10.4×7.0	エッチング・紙
42	菅野陽	暁の女神エオスとセファラス 古代エトルリア	1978年	10.3×7.0	エッチング・紙
43	菅野陽	天使像 ドイツ 12世紀末	1978年	10.7×4.2	エッチング・紙
44	菅野陽	聖告の天使 イタリア 14世紀	1978年	10.5×7.0	エッチング・紙
45	菅野陽	天使習作 オランダ 17世紀	1978年	10.4×7.0	エッチング・紙
46	菅野陽	駆ける神 シリア 前9世紀以前	1978年	10.5×7.2	エッチング・紙
47	菅野陽	アプサラス(飛天) インド 6世紀初期	1978年	10.3×7.1	エッチング・紙
48	菅野陽	飛天 中国 5世紀	1978年	10.2×7.0	エッチング・紙
49	菅野陽	飛天 日本 7世紀	1978年	10.3×7.0	エッチング・紙
50	菅野陽	護法の童子 日本 12世紀	1978年	10.5×7.2	エッチング・紙
51	濱谷浩	村の子供	1940-49 年	29.9×19.8	ゼラチン・シルバ ープリント
52	濱谷浩	十五日夜のおまいり	1940-49 年	23.9×23.8	ゼラチン・シルバ ープリント
53	濱谷浩	若木に祈る	1940-49 年	29.9×19.8	ゼラチン・シルバ ープリント

※有元利夫作品は寄託、それ以外の出品作品はすべて当館所蔵。

### ●関連事業

事業名	日時、場所、講師等	参加者
担当学芸員によるギャラリートーク	1月9日(土)、1月17日(日) 各回 14:00~14:30 / 展示室Ⅱ	計7人

## ■ 8 ロビー展 保田春彦の世界—近作彫刻を中心に—

会期：2009年12月5日(水)～2010年4月4日(日)

種別	特集展
主催	平塚市美術館
観覧料	無料
入場者数	テーマホール開催のため集計無し
担当	小池光理(当館学芸員)



保田春彦《白い風景I》



《展示風景》



《展示風景》

### ●内容

湘南在住で、現代彫刻界を代表する作家の一人、保田春彦(ヤスタグハルヒコ 1930-)の木彫作品を中心に展示をしました。1958年に渡欧し、パリのアカデミー・グランド・ショーミエールで彫刻を学んでいた保田は、そこでシルヴィア・ミノオ=パルウエルロと出会い、結婚します。1968年に帰国してから、夫人は、保田の彫刻家としての活躍をつねに支える存在でした。

今回展示する一連の白い木彫作品は、2000年に夫人が逝去した後、彼女のキリスト教への信仰心のもとに、日常生活に温かい眼差しを注ぎ続けて制作をしていた姿勢を偲んで、夫人へのオマージュとして誕生したものです。それまでの鉄やステンレススチール等で構成された理知的でシャープな作品から、一転して「遠い記憶の家々への想い」をもとにした、素朴で詩的な静謐感ただよふ新しいスタイルの彫刻は、2007年に「平櫛田中賞」を受賞しました。

本展は、日頃目にすることの少ない彫刻作品を気軽に鑑賞できるよう、館内無料スペースにて開催しました。

### ●出品リスト

NO	作家名	作品名	制作年	サイズ(cm)	技法材料	所蔵先
1	保田春彦	白い風景Ⅰ	2004年	32.5×19.0×12.5	木、アクリル塗装	寄託
2	保田春彦	白い風景Ⅱ	2003年	63.5×9.0×11.5	木、アクリル塗装	寄託
3	保田春彦	白い風景Ⅲ	2004年	38.5×33.5×14.0	木、アクリル塗装	寄託
4	保田春彦	白い風景Ⅳ	2004年	14.5×39.0×39.0	木、アクリル塗装	寄託
5	保田春彦	白い風景Ⅴ	2004年	18.0×40.0×22.5	木、アクリル塗装	寄託
6	保田春彦	白い風景Ⅵ	2003年	11.5×31.0×23.0	木、アクリル塗装	寄託
7	保田春彦	白い風景Ⅶ	2004年	15.0×70.5×12.0	木、アクリル塗装	寄託
8	保田春彦	白い風景Ⅷ	2004年	18.0×48.0×61.0	木、アクリル塗装	寄託
9	保田春彦	白い風景Ⅸ	2004年	13.5×41.0×38.0	木、アクリル塗装	寄託
10	保田春彦	白い風景Ⅹ	2003年	20.0×27.5×22.5	木、アクリル塗装	寄託
11	保田春彦	白い風景ⅩⅠ	2003年	16.0×22.5×20.5	木、アクリル塗装	寄託
12	保田春彦	白い風景ⅩⅡ	2003年	12.0×20.0×21.0	木、アクリル塗装	寄託
13	保田春彦	白い風景ⅩⅢ	2004年	38.5×18.0×15.5	木、アクリル塗装	寄託
14	保田春彦	白い風景ⅩⅣ	2004年	30.5×20.0×15.0	木、アクリル塗装	寄託
15	保田春彦	白い風景ⅩⅤ	2003年	10.0×30.0×11.0	木、アクリル塗装	寄託

16	保田春彦	石を囲う幕舎	1992年	127.0×52.5×52.5	ステンレススチール、石、鉄	寄託
17	保田春彦	石を包む幕舎	1993年	94.0×54.2×54.2	ステンレススチール、黒花崗岩、鉄	寄託
18	保田春彦	囲いの中にある球・ある記念のために	1993年	36.8×36.8×36.8	ステンレススチール、石、鉄塗装	寄託

## ■ 9 湘南と作家 原精一展

会期：2010年2月16日(火)～4月11日(日)

種別 主催 観覧料 入場者数 担当	特集展 平塚市美術館 一般200(140)円、高大生100(70)円 ※各減免を除く 1,794人 勝山滋(当館学芸員) 安部沙耶香(当館学芸員)
-------------------------------	---



原精一 《少女》



原精一 《桃色の女》



鳥海青児 《シベリア駅路の雪》

### ●内容

所蔵品展「湘南と作家」の一環として、様々な人間を描き多くの作品を残した洋画家、原精一(ハライチ 1908～86)の作品を展示しました。

原精一は藤沢に生まれ、萬鉄五郎に師事。1927年に春陽会に初入選ののち、人物画を中心に制作活動を行いました。本展では、当館所蔵の約1600点の原精一作品の中から、戦前の人物画、静物画、戦後の人物画に分け、選りすぐった油彩画38点により原の画業を展覧しました。また師である萬鉄五郎「宙腰の人」ほか油彩作品、及び親交深かった鳥海青児の「道化」ほか油彩作品併せて11点も展示しました。

なおまとまった個展としては、市制70周年記念として開催された「原精一展—人間表現の魅力—」(2002年)以来の8年ぶりとなりました。会期中、作家の誕生日でもあった2月27日、および3月20日に会場にて学芸員によるギャラリートークを開催しました。

### ●出品リスト

NO	作家名	作品名	制作年	サイズ(cm)	技法材料
1	原精一	女達	1963年	130.7×194.2	油彩・キャンバス
2	原精一	桐生風景	1927年	24.9×35.4	油彩・キャンバス
3	原精一	静物	1926年	46.0×51.6	油彩・キャンバス
4	原精一	静物	1933年	41.0×53.1	油彩・キャンバス
5	原精一	本を見る女	1935年	65.4×53.5	油彩・キャンバス
6	原精一	男(坐像)	1940年	48.4×37.0	油彩・キャンバス
7	原精一	煙草のむ男	1936年	73.1×53.5	油彩・キャンバス
8	原精一	少女	1943年頃	45.4×52.9	油彩・キャンバス
9	原精一	陳少姐	1942年	41.0×31.8	油彩・キャンバス
10	原精一	裸婦	1947年頃	40.8×31.6	油彩・板

11	原精一	人物	1950年	79.2×99.7	油彩・キャンバス
12	原精一	水辺裸婦	1951年	116.8×72.5	油彩・キャンバス
13	原精一	二人の浴女	1949年	90.3×115.8	油彩・キャンバス
14	原精一	裸婦	1955年	53.0×73.0	油彩・キャンバス
15	原精一	座裸婦	1955年頃	73.0×53.3	油彩・キャンバス
16	原精一	座る裸婦	1963年頃	116.9×80.4	油彩・キャンバス
17	原精一	うつむく裸婦	1958年	99.5×65.1	油彩・キャンバス
18	原精一	裸婦	1958年頃	65.2×53.3	油彩・キャンバス
19	原精一	スフィンクス	1958年	65.5×80.4	油彩、木炭・キャンバス
20	原精一	たまごのある静物	1956年	90.7×60.7	油彩・キャンバス
21	原精一	玉子のある静物	1956年	100.0×65.2	油彩・キャンバス
22	原精一	静物	1967年	64.9×45.7	油彩・キャンバス
23	原精一	伊太利風景	1958年	53.2×65.1	油彩・キャンバス
24	原精一	モレー風景(洗濯女のいる)	1970年頃	46.1×55.3	油彩・キャンバス
25	原精一	茶色の帽子	1972年頃	80.2×53.4	油彩・キャンバス
26	原精一	二人	1963年	100.0×80.0	油彩・キャンバス
27	原精一	二人	1964年	100.0×72.5	油彩・キャンバス
28	原精一	赤い衣	1967年	60.5×50.0	油彩・キャンバス
29	原精一	F嬢	1956年頃	17.8×13.9	油彩・キャンバスボード
30	原精一	黒衣少女	1955年	91.0×65.0	油彩・キャンバス
31	原精一	I先生肖像	1962年	116.7×80.5	油彩・キャンバス
32	原精一	椅子にかける裸婦	1960年	117.0×80.5	油彩・キャンバス
33	原精一	F嬢	1955年頃	80.2×63.5	油彩・キャンバス
34	原精一	母子	1981年頃	60.5×50.0	油彩・キャンバス
35	原精一	赤い布	1978年頃	50.1×60.5	油彩・キャンバス
36	原精一	緑の椅子の裸婦	1980年頃	80.4×53.3	油彩・キャンバス
37	原精一	三人	1983年	62.2×53.1	油彩・キャンバス
38	原精一	桃色の女	1985年	50.0×65.5	油彩・キャンバス
39	萬鉄五郎	宙腰の人	1924年	41.2×27.2	油彩・キャンバス
40	萬鉄五郎	雲と裸婦	1922年頃	25.3×16.8	油彩・キャンバス
41	萬鉄五郎	茅ヶ崎風景(海岸風景)	1924年	43.5×59.5	油彩・キャンバス
42	萬鉄五郎	静物	1926年	33.6×45.6	油彩・キャンバス
43	萬鉄五郎	椿	1926年	31.8×41.1	油彩・キャンバス
44	鳥海青児	裸婦	1926-30年	42.5×34.5	油彩・キャンバス
45	鳥海青児	裸婦(横たわる)	1926-30年	38.0×48.5	油彩・キャンバス
46	鳥海青児	芦屋風景	1926年	26.1×40.7	油彩・板
47	鳥海青児	シベリア駅路の雪	1930年	26.9×35.0	油彩・キャンバス
48	鳥海青児	高カラーの男	1938年	60.5×42.0	油彩・キャンバス
49	鳥海青児	道化	1939年	45.4×38.0	油彩・キャンバス

※出品作品は全て当館所蔵。

#### ●関連事業

事業名	日時、場所、講師等	参加者
担当学芸員によるギャラリートーク	2月27日(土)、3月20日(土) 各回14:30~15:00 / 展示室II	計7人

#### ●主な紹介記事・番組

月日	紹介内容
2月17日(水)	「平塚で洋画家作品展」 読売新聞
2月20日(土)	「原精一の画業たどる 平塚市美術館で油彩画展」 神奈川新聞

### Ⅲ 教育普及

#### (1) 教育プログラム

平成21年度は42のプログラムを実施し、総参加者数は1,526人。  
担当：小池光理(当館学芸員)、六島芳朗(当館嘱託員)

<b>■1 春休みファミリーワークショップ フェルト玉くるくるアクセサリ</b> 参加者22人		
○日数・開催日	4/1(水)	○講師：永井悦子さん(染織アーティスト)
○対象	親子(小学生)	○内容：フェルトで大小の玉をつかって革紐でつなぎ、フェルト玉ネックレスを制作しました。
○材料費	1,000円	

<b>■2 子育て支援プログラム 心のお絵かき のびのびアート「コラージュをしよう」</b> 参加者20人		
○日数・開催日	4/11(土)	○講師：福山恵美子さん(アートセラピスト)
○対象	小学生～一般	○内容：紙を切る、貼るなどを通してストレスを解消し、同時に自分の新しい面に気づきました。
○材料費	100円	

<b>■3 濱谷浩展関連 湘南・平塚風景再発見</b> 参加者11人		
○日数・開催日	4/19(日)、4/29(水祝)	○講師：川延昌弘さん(写真家・日本写真家協会会員)
○対象	一般	○内容：平塚土屋の写真撮影、それをパネルに貼って自分のストーリーを構築しました。4月12日(日)に展示室でプレレクチャー。
○材料費	2,000円	

<b>■4 子育て支援プログラム ベビー・アート</b> 参加者60人		
○日数・開催日	4/23(木)、5/14(木)、6/11(木)連続講座	○講師：富田めぐみさん(アートで子育てアドバイザー)
○対象	赤ちゃんとその保護者	○内容：赤ちゃんは美術を通して家では出来ない体験をし、お母さんは子どもの成長と子育てに関する悩みを解消しました。
○材料費	500円	

<b>■5 色鉛筆で細密に描く</b> 参加者17人		
○日数・開催日	4/26(土)、4/27(日) 連続講座	○講師：寺崎百合子さん(アーティスト)
○対象	一般	○内容：「一番好きだった頃の自分」をテーマに、色鉛筆を使ってシリーズ画を描き込んでいきました。
○材料費	800円	

<b>■6 みんなの光るどろだんご講座</b> 参加者24人		
○日数・開催日	5/6(水祝) 午前開催	○講師：岩月真由子さん(土の美術家)
○対象	小学生	○内容：左官の技法「千石磨き」を使って光るどろだんごを制作。
○材料費	1,000円	

<b>■7 みんなの光るどろだんご講座</b> 参加者16人		
○日数・開催日	5/6(水祝) 午後開催	○講師：岩月真由子さん(土の美術家)
○対象	高校生～一般	○内容：左官の技法「千石磨き」を使って光るどろだんごを制作。
○材料費	1,200円	

<b>■8 東海大学との協働事業 絵画から彫刻へ、彫刻から絵画へ</b> 参加者11人		
○日数・開催日	6/14(日)、21(日)、28(日) 連続講座	○講師：東海大学芸術学科美術学課程の先生方
○対象	一般	○内容：当館の彫刻を題材に、絵画と彫刻について木炭でデッサンすること、粘土で造形することを通して基礎を学びました。
○材料費	2,000円	

<b>■9 子育て支援プログラム 心のお絵かき「親子でコラージュしよう」</b>			<b>参加者 16人</b>
○日数・開催日	7/25(土)	○講師：福山恵美子さん(アートセラピスト)	
○対象	親子(小学生)	○内容：チラシや雑誌・写真から自分の好きなものや、気に入ったところを切り取ってコラージュをしました。	
○材料費	100円		

<b>■10 小中学校教員向け「オイル・パステルをつくろう」</b>			<b>参加者 14人</b>
○日数・開催日	7/29(水)	○講師：岩月真由子さん(土の美術家)	
○対象	小中学校教諭	○内容：土からオイル・パステルを制作。学校教材としても使えるよう指導しました。	
○材料費	1,000円		

<b>■11 みんなの光るどろだんご講座</b>			<b>参加者 45人</b>
○日数・開催日	7/30(木) 午前・午後2回開催	○講師：岩月真由子さん(土の美術家)	
○対象	小学生	○内容：左官の技法「千石磨き」を使って光るどろだんごを制作。	
○材料費	1,000円		

<b>■12 子育て支援プログラム 保育士による「つくって遊ぼう わくわくランド」</b>			<b>参加者 154人</b>
○日数・開催日	8/1(土), 8/8(土)	○講師：平塚市保育士の方々12名	
○対象	6才までの未就学児	○内容：保育士の指導でけん玉やブンブンごま、フォトフレームなどおもちゃの制作をしました。	
○材料費	無料		

<b>■13 山本直彰展関連 夏休み日本画体験！</b>			<b>参加者 29人</b>
○日数・開催日	8/1(土), 8/9(日)	○講師：山本直彰さん(日本画家)	
○対象・定員	小学生	○内容：作家によるギャラリーレクチャーの後、日本画の技法3種類を体験。日本美術史講座も行いました。	
○材料費	900円		

<b>■14 へたでも楽しくえがくぞ</b>			<b>参加者 18人</b>
○日数・開催日	8/5(水)	○講師：平塚美術家協会会員の先生方	
○対象	小中学生	○内容：家からもってきたお気に入りのもの、また季節の果物や野菜をモチーフに、ダイナミックに描くことを楽しみました。	
○材料費	100円		

<b>■15 子育て支援プログラム 大きな絵・小さな絵</b>			<b>参加者 26人</b>
○日数・開催日	8/6(木)	○講師：富田めぐみ(アートで子育てアドバイザー)	
○対象	3才～小学生	○内容：絵の具を使って大きな絵と小さな絵を仕上げました。	
○材料費	200円		

<b>■16 ちひろの水彩技法・にじみ体験!! 缶バッジをつくろう!</b>			<b>参加者 23人</b>
○日数・開催日	8/11(火)	○講師：六島芳朗(当館職員)	
○対象	中学生	○内容：中学生ボランティア・スタッフ向けのプログラム	
○材料費	無料		

<b>■17 ちひろの水彩技法・にじみ体験! 缶バッジをつくろう!</b>			<b>参加者 470人</b>
○日数・開催日	8/14(木), 8/15(金), 8/16(土)	○講師：六島芳朗(当館職員) 中学生ボランティア	
○対象	4才～一般	○内容：水彩絵の具を使ってにじみの技法を体験し、できた紙でちひろ展記念グッズとして缶バッジを制作しました。	
○材料費	50円		

<b>■18 みんなの光るどろだんご講座</b>		<b>参加者 46 人</b>
○日数・開催日	8/21(金) 午前・午後 2 回開催	○講師：岩月真由子さん(土の美術家)
○対象	小学生	○内容：左官の技法「千石磨き」を使って光るどろだんごを制作。
○材料費	1,000 円	

<b>■19 陶器のあかり～ランプシェードを作ろう～</b>		<b>参加者 44 人</b>
○日数・開催日	9/26(土)、10/31(土) 午前・午後 2 回開催 計 4 回	○講師：塩田亜希子さん(陶のあかり作家)
○対象	親子(小学生)	○内容：陶のランプシェードを制作。12 月のアートフェアで作品による光のインスタレーションを実施。
○材料費	700 円	

<b>■20 藍染め体験</b>		<b>参加者 9 人</b>
○日数・開催日	10/4(日)	○講師：山岸八千代さん、竹村真衣さん
○対象	高校生～一般	○内容：木綿のバッグにおっこち絞りの技法で模様を染めました。
○材料費	1,500 円	

<b>■21 カー・デザインの歴史展関連 「日産デザイン わくわくスタジオ」(スケッチ体験)</b>		<b>参加者 56 人</b>
○日数・開催日	10/10(土), 24(土) 午前・午後 2 回開催 計 4 回	○講師：日産カーデザイナー
○対象	小中学生	○内容：日産カーデザイナーの方々がカーデザインの魅力を映像を交えてレクチャー。スケッチもいっしょに描きました。
○材料費	無料	

<b>■22 チャレンジ！大型プレス機で版画体験</b>		<b>参加者 4 人</b>
○日数・開催日	10/11(土)	○講師：城戸宏さん(版画工房主宰)
○対象	小学 3・4 年生	○内容：葉っぱや段ボールなど、いろいろなものにインクをつけて、プレス機で摺り版画の楽しさを体験しました。
○材料費	500 円	

<b>■23 秋の光るどろだんご講座スペシャル！！</b>		<b>参加者 35 人</b>
○日数・開催日	10/17(土) 午前・午後 2 回開催	○講師：岩月真由子さん(土の美術家)
○対象	4 才～小学生	○内容：左官の技法「千石磨き」を使って光るどろだんごを制作。今回は平塚の遺跡で採集した土を使用する特別バージョンでした。
○材料費	1,000 円	

<b>■24 大型プレス機で楽しい紙版画</b>		<b>参加者 5 人</b>
○日数・開催日	10/18(日)	○講師：城戸宏さん(版画工房主宰)
○対象	小学 5・6 年生	○内容：紙を切ったり、破ったり、剥がしたりしてつくる紙凹版画で、自由な表現を楽しみました。
○材料費	500 円	

<b>■25 パステルアートで自分発見</b>		<b>参加者 9 人</b>
○日数・開催日	11/3(火・祝)	○講師：福山恵美子さん(アートセラピスト)
○対象	一般	○内容：心のままに塗ることで「心が元気になる感じ！」をひきだしました。
○材料費	200 円	

<b>■26 陶器のあかり～ランプシェードを作ろう～</b>		<b>参加者 12 人</b>
○日数・開催日	11/7(土)	○講師：塩田亜希子さん(陶のあかり作家)
○対象	一般	○内容：陶のランプシェードを制作。12 月のアートフェアで作品による光のインスタレーションを実施しました。
○材料費	800 円	

<b>■27 子育て支援プログラム ベビー・アート</b>		<b>参加者 60 人</b>
○日数・開催日	11/12(木) , 12/10(木) , 1/14(木) 連続講座	○講師：富田めぐみさん(アートで子育てアドバイザー)
○対象	赤ちゃんとその保護者	○内容：赤ちゃんは美術を通して家では出来ない体験をし、お母さんは子どもの成長と子育てに関する悩みを解消しました。
○材料費	500 円	

<b>■28 カー・デザインの歴史展関連 「キミだけのクルマをつくろう!」(クレイモデル体験)</b>		<b>参加者 63 人</b>
○日数・開催日	11/14(土) , 21(土) 午前・午後 2 回開催 計 4 回	○講師：日産クレイモデラー
○対象	小中学生	○内容：日産クレイモデラーの方々と、世界に一つのオリジナルのクルマをつくりました。
○材料費	無料	

<b>■29 クリスマス企画 ツリーキャンドル</b>		<b>参加者 18 人</b>
○日数・開催日	12/12(土)	○講師：軸丸智香子さん(子ども造形教室講師)
○対象	小学生	○内容：クリスマスモチーフにした手作りキャンドルをつくりました。
○材料費	300 円	

<b>■30 ペタペタ光の水族館～紙の大きなステンドグラス～</b>		<b>参加者 15 人</b>
○日数・開催日	12/13(日)	○講師：岩田晶子さん(子ども美術教室講師)
○対象	4 才～小学生	○内容：塗って、お魚のかたちに取り抜いて大きな台紙に貼り、テーマホールに巨大な壁画を出現させました。
○材料費	200 円	

<b>■31 ポーセリンアート～ヨーロッパの伝統絵付け体験～</b>		<b>参加者 12 人</b>
○日数・開催日	1/21(木) , 28(木) 連続講座	○講師：井上美枝子さん(ポーセリンアーティスト)
○対象	一般	○内容：ヨーロッパ磁器のレクチャーを聞いた後、白磁に模様を焼き付けて、伝統絵付け技法「ポーセリンアート」を体験しました。
○材料費	800 円	

<b>■32 泥画～土で描く鬼の顔～</b>		<b>参加者 5 人</b>
○日数・開催日	1/31(日) 午前	○講師：岩月真由子さん(土の美術家)
○対象	小学生	○内容：土の色を使って絵を描きました。今回は節分にちなんで鬼の顔を作りました。
○材料費	1,000 円	

<b>■33 真田の土のどろだんご講座</b>		<b>参加者 6 人</b>
○日数・開催日	1/31(日) 午後	○講師：岩月真由子さん(土の美術家)
○対象	一般	○内容：左官の技法「千石磨き」を使って光るどろだんごを制作。今回は平塚の遺跡で採集した土を使用する特別バージョンでした。
○材料費	1,000 円	

<b>■34 色鉛筆で描くシリーズ画～わたしの物語～</b>		<b>参加者 12 人</b>
○日数・開催日	2/6(土) , 13(土) , 20(土) 連続講座	○講師：寺崎百合子さん(アーティスト)
○対象	一般	○内容：自分が好きな「もの」からイメージをふくらませて、4 枚のシリーズ画を色鉛筆で仕上げました。
○材料費	1,200 円	

<b>■35 フェルトのオブジェ～羊毛との対話～</b>		<b>参加者 20 人</b>
○日数・開催日	2/24(水)	○講師：永井悦子さん(染織アーティスト)
○対象	一般	○内容：素材や性質などの説明を聞きながら、羊毛からフェルトを作り、さらにコースターやミニポーチに仕上げました。
○材料費	1,000 円	

<b>■36 ころころフェルトのカラフル・オブジェ～羊の毛で遊ぼう～</b>		<b>参加者 22 人</b>
○日数・開催日	2/28(日)	○講師：永井悦子さん(染織アーティスト)
○対象	親子(小学生)	○内容：羊の毛を重ねて丸めてフェルトボールをつくり、割ってカラフルな色の世界を楽しみました。
○材料費	1,000 円	

<b>■37 ほわほわフェルトのミニ・ポーチ～羊の毛で遊ぼう～</b>		<b>参加者 22 人</b>
○日数・開催日	3/7(日)	○講師：永井悦子さん(染織アーティスト)
○対象	親子(小学生)	○内容：カラフルな羊の毛を重ねてこすって、オリジナル・ミニポーチをつくりました。
○材料費	1,000 円	

<b>■38 銅版画入門 ソフトグラウンドでつくるオリジナル・カード</b>		<b>参加者 14 人</b>
○日数・開催日	3/12(金)	○講師：城戸宏さん(版画工房主宰)
○対象	一般	○内容：当館のプレス機を使用して銅版画の腐食技法の一つ「ソフトグラウンド」を学びました。
○材料費	800 円	

<b>■39 銅版画入門 エッチングでつくるオリジナル・カード</b>		<b>参加者 13 人</b>
○日数・開催日	3/19(金)	○講師：城戸宏さん(版画工房主宰)
○対象	一般	○内容：当館のプレス機を使用して銅版画の腐食技法の一つ「エッチング」を学びました。
○材料費	800 円	

<b>■40 マイ・ボールペンをつくろう!!</b>		<b>参加者 13 人</b>
○日数・開催日	3/21(日・祝)	○講師：岩田晶子さん(子ども美術教室講師)
○対象	小学生(新1年生を含む)	○内容：カラー粘土をつかってマイ・ボールペンを作りました。
○材料費	200 円	

<b>■41 大きな絵 小さな絵</b>		<b>参加者 21 人</b>
○日数・開催日	3/27(土)	○講師：富田めぐみさん(アートで子育てアドバイザー)
○対象・定員	3才～小学生	○内容：ローラー・ハケ・極細ペン・色鉛筆・いろいろな道具を使って大きな絵と小さな絵を2枚描きました。
○材料費	200 円	

<b>■42 笑った・怒った・泣いた～紙でつくる顔の彫刻～</b>		<b>参加者 14 人</b>
○日数・開催日	3/28(日) 午前・午後2回開催	○講師：谷内庸生さん(デザイナー、紙の彫刻家)
○対象	小学生～一般	○内容：四角い紙1枚から、たくさんの立体作品を作成しました。自分の顔や周りの人の顔、自分の気持ちを表現しました。
○材料費	500 円	

## (2) 団体向け研修・体験プログラム

No	種別	年月日	参加団体	内容	人数
1	学習	5月8日(金)	中教育事務所	「近代日本洋画の華展」見学	40人
2	学習	5月14日(木)	公民館自主事業 美術鑑賞講座	「近代日本洋画の華展」見学とレクチャー(崇善、富士見、松原)	58人
3	学習	5月28日(木)	公民館自主事業 美術鑑賞講座	「近代日本洋画の華展」見学とレクチャー(大神)	17人
4	実習	6月～12月	各大学	学芸員資格取得のための美術館実習：各実習生14日間	4人
5	学習	6月16日(火)	四季の会	「近代日本洋画の華展」見学とレクチャー	20人
6	学習	6月17日(水)	アート21	「近代日本洋画の華展」見学とレクチャー	22人
7	学習	7月22日(水)	神田中学校区 子ども読書活動推進協議会	「ちひろ展」見学とレクチャー	26人
8	学習	7月26日(日)	開成町教育委員会町民センター 講座	「ちひろ展」見学とレクチャー	19人
9	学習	7月28日(火)	伊勢原市小学校教育委員会図工部	「ちひろ展」見学とレクチャー	22人
10	学習	7月30日(木)	公民館自主事業 美術鑑賞講座	「ちひろ展」見学とレクチャー(神田、岡崎、城島)	81人
11	学習	8月4日(火)	平塚市立神田小学校 職員研修	「ちひろ展」見学とレクチャー	20人
12	学習	8月6日(木)	公民館事業 美術鑑賞講座	「ちひろ展」見学とレクチャー(大野、八幡、四之宮、松が丘、大原、南原の7公民館)	61人
13	学習	8月13日(木)	公民館事業 美術鑑賞講座	「ちひろ展」見学とレクチャー(旭南)	20人
14	学習	8月20日(木)	公民館事業 美術鑑賞講座	「ちひろ展」見学とレクチャー(崇善、松原、富士見)	60人
15	学習	8月27日(木)	公民館事業 美術鑑賞講座	「ちひろ展」見学とレクチャー(大神)	25人
16	学習	10月18日(日)	JTB主催 外国人報道記者団	「カーデザイン展」見学とレクチャー	109人
17	学習	10月22日(木)	公民館事業 美術鑑賞講座	「カーデザイン展」見学とレクチャー(大神)	5人
18	学習	11月5日(木)	公民館事業 美術鑑賞講座	「カーデザイン展」見学とレクチャー(神田、岡崎、城島)	26人
19	学習	11月19日(木)	公民館事業 美術鑑賞講座	「カーデザイン展」見学とレクチャー(松原、富士見)	12人
計					647人

## (3) 職場体験

美術館では、市内の中学生、高校生が職場の現場で仕事を実際に体験することによって、社会性・勤労観やマナーを身につけ、将来の職業選択につながるよう、職場体験の受け入れを行っています。

No.	年月日	参加者	人数	内容
1	2009年7月24日(金)	平塚湘風高等学校2年生	3人(男)	館の概要講義及び業務体験
2	9月3日(木)	大磯高等学校1年生	19人(男6人/女13人)	館の概要講義及び施設見学
3	2010年1月28日(木)	大住中学校1年生	4人(男1人/女3人)	館の概要講義及び業務体験
4	1月29日(金)	春日野中学校1年生	2人(男)	館の概要講義及び業務体験
参加者 計28人				

## IV その他の事業

### (1) 事業

#### 1 第32回平塚市展

2009年6月14日(日)～6月28日(日)

平塚市美術館が開館した1991年に、平塚市展第14回展を展示室と市民アートギャラリーを使用して開催。以降毎年、同施設を利用して開催しています。

主催	平塚市展委員会
協力	平塚書道協会・湘南美術工芸研究会・平塚美術家協会・平塚写真連盟・平塚市教育委員会
後援	平塚市・平塚市文化連盟・平塚商工会議所・平塚市文化財団
場所	展示室、市民アートギャラリー
日数	13日
参加者数	6,838人

#### 2 ビジュアル・アート「村田朋泰ワンダーワールド」

2009年6月20日(土)～7月12日(日) 10:00-16:30

主催	平塚市美術館
制作	TOMOYASU MURATA COMPANY.
内容	平塚市美術館で昨年開催した企画展「村田朋泰展-夢がしゃがんでいる」の映像作家による作品を上映しました(DVD)。上映プログラムは下表のとおり。
場所	ミュージアムホール
日数	20日
参加者数	「自由観覧」のため集計無し

NO	プログラム・タイトル	制作年	上映時間	
1	家族デッキ vol.2	Family Deck vol.2	2007	5分
2	さかだちくん ひたすらオリンピック!	Handstand Boy, Olympics all the way!	2008	3分
3	家族デッキ vol.5	Family Deck vol.5	2008	5分
4	朱の路	Scarlet Road	2002	14分
5	家族デッキ vol.6	Family Deck vol.6	2009	5分
6	アブレーション/わたしのプディング	Ablation/My Pudding	2009	6分
7	tomorrow	tomorrow	2007	3分



会場入口



家族デッキ VOL. 2

### 3 アートフェア 2009

2009年12月19日(土)-12月20日(日) 9:30-16:30 (最終日は15:00まで)

主催	平塚市美術館
内容	今年実施したワークショップ参加者作品を集め発表会を開催しました。20日にはミニライブも開催し、ワークショップ「陶器のあかり」で制作したランプシェードのライトアップと、軽快な音色を堪能しました。※ライトアップ展示指導 塩田亜希子氏(ワークショップ講師 陶のあかり作家)
場所	テーマホール
日数	2日
参加者数	180人

#### ○アートフェア期間中のイベント ミニライブ

2009年12月20日(日) 16:00~16:30

主催	平塚市美術館
出演者	「ゆうP ゴールド」 渡辺ゆう(オカリナ) / mikiP(アコースティックギター)
曲目	曲目:1 クリスマスメドレー 2 津軽のふるさと 3 ロミオとジュリエット 4 パリの空の下 他
内容	オカリナとアコースティックギターによるアンサンブル演奏を行いました。ワークショップ「陶器のあかり」で作ったランプシェードにキャンドルライトを灯し、音楽と光のアートの幻想的な夕べを演出しました。
場所	テーマホール
参加者数	100人



会場風景



ミニライブ実施風景

### 4 美術品寄贈作家への表彰式

2009年12月22日(火)

久野和洋さん、郷倉和子さん、嶋剛さん、平野杏子さん、山本直彰さんから計31点の作品が美術館に寄贈され、大藏市長から感謝状と記念品を贈呈いたしました。



左から郷倉氏、嶋氏、大藏市長、平野氏、久野氏

## 5 第二回 子ども年賀状展

2010年1月6日(水)～11日(月・祝)

主催	平塚市美術館
内容	美術館を身近に感じてもらうための取り組みとして、美術館への年賀状を募集し、届いた年賀状を展示する「第二回子ども年賀状展」を開催いたしました。会場内ではカレンダー作りのミニワークショップも実施しました。また本展は、展示作業・会場装飾・受付案内等を市民ボランティアの協力のもと行った、市民ボランティアとの協働で作上げた展覧会です。
場所	市民アートギャラリー
応募総数	485 通
日数	6 日
入場者数	480 人



会場風景



展示風景



カレンダー作りコーナー

## 6 ミュージアム・コンサート

2010年2月14日(日) 14:00～15:30

主催	平塚市美術館
タイトル	クワットロ ディーヴェ〜4人の女神たち〜
出演者	河村潤子(ソプラノ)、山田淳子(ソプラノ)、露木友美子(メゾソプラノ)、小森美穂(ピアノ)
曲目	曲目：アヴェ・マリア、「蝶々夫人」より ある晴れた日に、ロマンチストの豚、アメイジング・グレイス 他
内容	オペラ、日本歌曲、アンサンブルを織り交ぜた楽曲。
場所	テーマホール
参加者数	175 人



実施風景

## (2) 定例会議

### ●美術館協議会

○委員(敬称略) 8名

山梨俊夫(学識経験者)、滝波重人(学識経験者)、木下一士(学識経験者)、望月正大(学校教育関係者)、熊澤貞夫(学校教育関係者)、大橋千賀子(学校教育関係者)、平野恵美子(社会教育関係者)、今関健司(社会教育関係者)

○開催日/議題

第1回 2009年8月21日(火) 平成21年度事業計画及び今までの事業結果について

第2回 2010年3月18日(木) 平成21年度下半期事業報告、平成22年度事業計画(案)、観覧料の一部改正について

### ●美術品選定評価委員会

○委員(敬称略) 5名

酒井忠康(学識経験者)、水沢勉(学識経験者)、荒屋鋪透(学識経験者)、加藤弘子(学識経験者)、猿渡紀代子(学識経験者)

○開催日/議題

2009年10月14日(水) 寄贈・寄託作品の収蔵の選定と評価

## (3)「平塚市美術館友の会」活動

2002年4月発足。会員は美術館主催事業または連携事業を通じて交流をもち、各自の知識と教養を深め、平塚市の文化芸術の向上に寄与することを目的に設立。

○会員数：181人

○特典：2004年4月より実施。特集展は団体料金を適用、企画展は100円を減免。企画展レクチャーの案内。

○活動：友の会レクチャーの実施。

## V 施設利用者の統計

### (1) 展覧会

#### ●入場者数 月別統計

月	開館日数	企画展	特集展	合計
4月	26日	534人	1,651人	2,185人
5月	28日	3,628人	2,740人	6,368人
6月	25日	2,463人	0人	2,463人
7月	27日	8,346人	4,056人	12,402人
8月	26日	31,498人	13,673人	45,171人
9月	27日	—	1,064人	1,064人
10月	27日	5,971人	2,341人	8,312人
11月	25日	7,858人	2,652人	10,510人
12月	24日	—	648人	648人
1月	24日	—	1,008人	1,008人
2月	24日	—	883人	883人
3月	27日	—	885人	885人
4月※	10日	—	361人	361人
計	320日	60,298人	31,962人	92,260人

※平成21年度の展覧会は、平成22年度4月11日まで実施。

#### ●学校観覧

		企画展			特集展		
		学校数	生徒数	教員数	学校数	生徒数	教員数
小学校	市内	6校	329人	29人	7校	432人	32人
	市外	3校	156人	10人	11校	613人	39人
中学校	市内	6校	43人	11人	7校	29人	15人
	市外	7校	67人	10人	9校	76人	15人
高等学校		1校	9人	1人	3校	36人	15人
計		23校	604人	61人	37校	1,186人	116人

## (2) 貸出施設

### ●市民アートギャラリー 月別統計

月	利用日数	団体数	入場者数
4月	24日	6団体	3,495人
5月	24日	7団体	5,776人
6月	33日	5団体	6,534人
7月	24日	5団体	4,290人
8月	24日	6団体	8,719人
9月	31日	6団体	4,815人
10月	23日	3団体	4,377人
11月	24日	7団体	9,547人
12月	24日	6団体	3,607人
1月	24日	4団体	4,289人
2月	24日	5団体	4,613人
3月	31日	7団体	4,458人
計	310日	67団体	64,520人

### ●ミュージアムホール 月別統計

月	利用日数	団体数	入場者数
4月	8日	8団体	532人
5月	1日	1団体	60人
6月	1日	1団体	67人
7月	2日	2団体	207人
8月	1日	1団体	300人
9月	4日	4団体	365人
10月	1日	1団体	10人
11月	0日	0団体	0人
12月	10日	11団体	648人
1月	9日	9団体	542人
2月	7日	7団体	553人
3月	10日	10団体	787人
計	54日	55団体	4,071人

## ●アトリエ 月別統計

月	利用日数	団体数	入場者数
4月	4日	4団体	14人
5月	5日	5団体	65人
6月	2日	2団体	8人
7月	2日	2団体	11人
8月	0日	0団体	0人
9月	7日	4団体	447人
10月	0日	0団体	0人
11月	0日	0団体	0人
12月	2日	2団体	34人
1月	3日	3団体	31人
2月	3日	3団体	39人
3月	5日	5団体	37人
計	33日	30団体	686人

## VI 施設の管理

### (1) 防災訓練・冷凍機更新工事

#### ●防災訓練

実施日時：2009年5月27日(水)／9:00～9:30

内容：通報・消火(水消火器を使用)・避難誘導訓練、各自の役割・展示室からの避難経路の確認。

想定：美術館1階の「市民アートギャラリー厨房」で火災発生、施設利用者75人が来館中と想定。

#### ●冷凍機更新工事

実施時期：2009年7月7日(火)～2010年3月15日(月)

## (2) 施設の貸出について

### ●ミュージアムホール

- 講演会、演奏会、映写会、会議等の開催について利用可能（床面積は 262 ㎡、座席数最大 150 席程度）。
- 利用希望者の申込みは一団体(個人)1 件とする。

#### 申込手続

- 美術館施設利用申込書の提出→審査・許可→使用料納入→美術館施設利用承認書の交付
- 受付は利用日の 6 ヶ月前の日から利用開始 7 日前まで。受付時間は 9:30～17:00。
- ピアノ・マイク等、その他設備の有料貸出しあり。

#### 利用日時

- 美術館事業で使用していない開館日に限る。
- 利用は半日単位で連続 2 日間まで。利用時間は、午前が 9:30～12:30、午後が 13:00～16:50、全日利用が 9:30～16:50。

#### 使用料

利用時間帯	平塚市民・団体	平塚市外
午前 9:30～12:30	2,000 円	3,000 円
午後 13:00～16:50	3,000 円	4,500 円
全日 9:30～16:50	5,000 円	7,500 円

※平塚市が協賛または後援する行事の場合の使用料は上記額の半額。

### ●市民アートギャラリー

- 絵画、彫刻、工芸、書、写真等の美術に関する展示希望者への貸出しが可能。希望者多数の場合は抽選。
- 施設規模は、天井高が 3.5m、床面積は A 室が 215 ㎡、B 室が 149 ㎡、AB 全室利用が 365 ㎡、標準壁面長が A 室で 68m、B 室が 57m、AB 全室利用で 120m。
- 利用希望者の申込みは一団体(個人)1 件とする。申込み手続きは、受付期間に以下の順序で行っている。

#### 申込手続

- 展覧会計画書(館所定の用紙)の提出→審査→抽選・調整→美術館施設利用申込書の提出→使用料の納入→美術館施設利用承認書の交付

#### 受付期間

- 10 月から 3 月の間に利用希望の場合：4 月 1 日～10 日 受付時間 9:30～17:00  
空室があった場合のみ、5 月 1 日以降、利用開始 7 日前まで申込みが可能。
- 4 月から 9 月の間に利用希望の場合：10 月 1 日～10 日 受付時間 9:30～17:00  
空室があった場合のみ、11 月 1 日以降、利用開始 7 日前まで申込みが可能。

#### 利用期間と日時

- 1 日単位で最大 1 週間(6 日間以内＝火曜日から日曜日)まで利用可能。時間は 9:30～16:50 まで。  
美術館休館日(月曜定休)は利用不可。

## 使用料

利用場所	平塚市民・団体	平塚市外
全室	10,000 円	15,000 円
A 室	6,000 円	9,000 円
B 室	4,000 円	6,000 円

※平塚市が協賛または後援する行事の場合の使用料は上記額の半額。

## ●アトリエ A 室・B 室

○絵画・彫刻・工芸等の制作希望者への貸出しが可能(床面積は A 室 157 m<sup>2</sup>、B 室 111 m<sup>2</sup>)。

○利用希望者の申込みは一団体(個人)1 件とする。

## 利用日時

○美術館事業で使用していない開館日に限る。※利用可能日については要問い合わせ

○利用は半日単位で 6 日間まで 午前利用が 9:30～12:30/午後利用が 13:00～16:50/全日利用が 9:30～16:50

○美術館施設利用申込書の提出→審査・許可→使用料納入→美術館施設利用承認書の交付

○受付は利用日 2 ヶ月前から利用開始 7 日前まで、受付時間は 9:30～17:00。

## 使用料

利用場所	利用時間帯	平塚市民・団体	平塚市外
アトリエ A	午前 9:30～12:30	1,000 円	1,500 円
	午後 13:00～16:50	1,500 円	2,250 円
	全日 9:30～16:50	2,500 円	3,750 円
アトリエ B	午前 9:30～12:30	700 円	1,050 円
	午後 13:00～16:50	1,100 円	1,650 円
	全日 9:30～16:50	1,800 円	2,700 円

※平塚市が協賛または後援する行事の場合の使用料は上記額の半額。

## Ⅶ 沿革

#### 1971年(S46)

11月 フクスケ画廊2周年記念パーティに集った作家たちより「平塚市へ美術館建設の要望をすること」の申請なされる。  
加藤一太郎市長、平野博収入役より「一作家一点寄贈運動」の提案。

#### 1977年(S52)

3月 新設された平塚市博物館で「平塚市所蔵美術展」の開催、あわせて『平塚市所蔵美術品目録』の発行。  
9月 企画展「鳥海青児と昭和の画家たち展 神奈川芸術祭」(神奈川県立近代美術館共催)、会場は平塚市博物館。

#### 1982年(S57)

5月 社会教育委員会議長名で「平塚市美術館建設について」の建議が教育長宛になされる。

#### 1984年(S59)

4月 石川京一市長が美術館建設を公約として、市長選2期目に再選される。  
5月 「美術館建設研究委員会」発足(庁内組織 委員長:山本桂一郎 教育委員会指導部)。  
9月 平塚美術協会が「平塚市美術館早期促進建設の為の陳情書」を市に提出。

#### 1985年(S60)

7月 「平塚市美術館建設基本構想策定委員会」設置(～1986年まで全8回開催)。  
※構成委員は次の通り。落合良延、陰里鉄郎、匠秀夫、田中穰、原田実、平野博、升水滋、水島英耀、湯井勝(敬称略)。

#### 1986年(S61)

3月 「平塚市美術館建設基本構想策定」答申。湘南の中心に位置する美術館としてメインテーマを「湘南の美術・光」とする。  
4月 「美術館建設基本計画策定連絡協議会」の設置(庁内組織)。  
「第1回平塚市美術品選定評価委員会」の開催(於 平塚市博物館)。  
9月 「平塚市美術館新築設計技術提案審査会」発足。プロポーザル予備審査会、本審査会を開催、9社の提案を審査。

#### 1988年(S63)

1月 大蔵省との美術館建設用地払い下げ契約完了。㈱日建設計と委託契約。  
4月 「平塚市教育委員会指導部美術館建設準備室」として博物館から独立、設置。

#### 1989年(H元)

3月 「仮称平塚市美術館建築工事(本体工事費)」の議決なされる。  
7月14日 「平塚市美術館建設」起工。仮称平塚市美術館新築工事安全祈願祭に石川市長ほか関係者約70名が出席。

#### 1990年(H2)

10月 「平塚市美術館本体工事」竣工。  
12月 「平塚市美術館条例」公布。

#### 1991年(H3) 平塚市美術館開館

3月 美術館のシンボル彫刻《コンストラクション#115》ホセ・デ・リヴェラ作の搬入設置。  
3月25日 平塚市美術館開館(初代館長に原田実が就任)、記念式典の開催。26日より一般公開。  
開館記念展「スイス プチパレ美術館名品展—タルコフとエコール・ド・パリの画家たち—」～5月5日まで。  
5月18日～6月16日 開館記念展「湘南の萬鉄五郎」  
7月 「平塚市展」はこの第14回展以降毎年、平塚市美術館展示室と市民アートギャラリーで開催。

#### 1992年(H4)

3月20日～4月19日 「市制60周年記念 相模の禅僧 風外慧薫作品展 平塚市博物館所蔵・高瀬コレクション」  
7月 第15回平塚市展から「美術館賞」の設定、審査は館長が行う。  
11月14日～12月13日 「市制60周年記念 田中真洲回顧展」開催。

#### 1993年(H5)

7月 博物館実習生の受け入れを開始。

#### 1994年(H6)

3月 教育普及活動関連冊子ワークショップ「オリジナルブック「読むワークショップ」」の刊行開始(年2冊～1999年)。

#### 1995年(H7)

4月 教育普及活動において、市民参加型長期プログラム「ワークショップクラブ」発足。

#### 1996年(H8)

11月9日～12月22日 開館5周年記念展「ミレーとバルビゾン派の画家たち」開催。

10月 美術館内における総合的な地震対策の開始：彫刻転倒防止措置、スポットライト落下防止措置等。

#### 1997年(H9)

4月 2代目館長に福田徳樹（フクダトキ）就任。

#### 1999年(H11)

5月 常設展示を発展させた、所蔵品による「特集展示」の企画開始。

#### 2000年(H12)

10月14日～22日 平塚市神奈川大学交流提携10周年記念「開港期の神奈川・世界が見た日本」展開催。

#### 2001年(H13)

7月26日～9月30日 開館10周年記念展「湘南の美術・光—美術館建設運動から開館10周年まで」開催。

#### 2002年(H14)

2月9日～3月24日 開館10周年記念展「日本画の巨匠 安田靉彦—歴史画の魅力」開催。

4月 「平塚市美術館友の会」発足。

11月2日～12月23日 市制70周年記念「原精一 人間表現の魅力」展開催。

#### 2003年(H15)

2月2日～3月30日 平塚市・神奈川大学交流事業 地域コレクションシリーズⅢ「神奈川大学図書館所蔵 パリ・コミュニケーションの風刺画 —1871年ペンと大砲の市民革命」展開催。

#### 2004年(H16)

4月 3代目館長に、草薙奈津子（クサギナツコ）就任。

#### 2005年(H17)

7月23日～9月11日 「生誕100年記念 三岸節子展」

#### 2006年(H18)

1月～3月 展示室可動壁のクロス張替え作業のため休室。

9月20日 皇后美智子さまがご来館。

「世界の絵本がやってきた ブラティスラヴァ世界絵本原画展」をご鑑賞されました。

10月14日～11月26日 開館15周年記念展「日本画の巨匠 山本丘人展」開催。

#### 2007年(H19)

4月14日～5月27日 「三沢厚彦アニマルズ+PLUS」展開催。

9月15日～11月4日 「絵で読む宮沢賢治展—賢治と絵本原画の世界」展開催。

#### 2008年(H20)

2月2日～3月23日 河野通勢展 ※美術館連絡協議会の2008年度「美連協大賞」を受賞。

11月7日 妃殿下秋篠宮紀子さまがご来館。

「近代日本画の巨匠 速水御舟—新たなる魅力」展をご鑑賞されました。

#### 2009年(H21)

7月11日～9月6日 「山本直彰展 帰還する風景」

7月18日～8月30日 「わたしがえらんだいわさきちひろ展」39,844人の観覧者を記録し歴代入場者数1位となる。

## 平成 21 年度 平塚市美術館年報

発行年月：2010 年 7 月

編集・発行：平塚市美術館

〒254-0073 神奈川県平塚市西八幡 1-3-3

電話 0463-35-2111

<http://www.city.hiratsuska.kanagawa.jp/art-muse/>





# 平成 22 年度事業(案)

## I 展覧会

### (1)平成 22 年度展覧会(案)

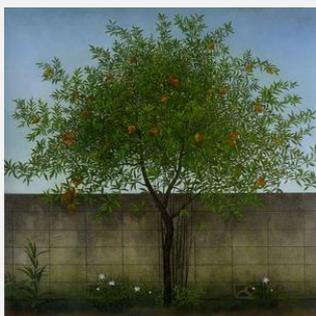
#### ■ 1 新収蔵品展

会期：2010年4月10日(土)～5月30日(日) 開催日数 45日

種別 特集展  
主催 平塚市美術館  
観覧料 一般200(140)円、高大生100(70)円 ※各減免を除く  
担当 小池光理(当館学芸員)



海老原喜之助《曲馬》



久野和洋《地の風景・雨が降る》



鳴剛《SHONAN2》

#### ●内容

平塚市美術館では開館以来「湘南の美術・光」をテーマに、近現代の洋画・日本画・彫刻の作品を中心に収集をおこなってきました。本展では、2009年度に収集した作品をご紹介します。

日本画では、郷倉和子(ゴウカラスコ)、益井三重子(メイミエコ)などの優れた女性作家の作品、開催した展覧会をきっかけにした山本直彰(ヤマモトナオキ)や、また福井江太郎(フカイエタロウ)の斬新な作品。洋画では、近代具象画を代表する画家、海老原喜之助(エビハネシカ)の滞欧作、また久野和洋(クノカズヒロ)の静謐な風景画や、平野杏子(ヒラノキョウコ)の大作シリーズなど。現代美術では、鳴剛(ネギゴウ)の表現の意味を問いかける作品。陶芸では三輪休雪(ミヅキユヅ)の現代感覚をとり入れた花器、彫刻では黒川弘毅(クワカワヒロキ)のモダンなブロンズ像など。平塚市美術館の新たな収蔵作品を、どうぞご鑑賞ください。

#### ●関連事業(予定)

事業名	日時、場所、講師等	参加者
担当学芸員によるギャラリートーク	5月1日(土)、5月15日(土) 各回 14:00～14:30 / 展示室 I	—

## ■ 2 平明・静謐・孤高ー長谷川湊二郎(はせがわりんじろう) 展

会期：2010年4月17日(土)～6月13日(日) 開催日数51日

種別	企画展
主催	平塚市美術館、読売新聞東京本社、美術館連絡協議会
協賛	ライオン、清水建設、大日本印刷、神奈川中央交通株式会社
観覧料	一般700(560)円、高大生500(400)円 ※各減免を除く
担当	土方明司(当館館長代理)



《猫》



《道(巴里郊外)》



《乾魚》

### ●内容

長谷川湊二郎(ハセガワリンジウ 1904-88)は戦前から戦後にかけて長く制作を続け、独自の写実表現を開拓しました。いわゆる画壇的な世界には属さず、また時々の美術の流行にも超然たる態度をとり、結果として日本の近代美術史上極めて特異な位置を占めています。

平明かつ温厚な写実表現でありながら、神秘的な幻想性を帯びたその作品は、みる者に忘れがたい印象を残します。何年もかけ、納得いくまで観察しないと描かない寡作、孤高ともいえる制作態度、江戸川乱歩にも称賛された探偵小説作家としての一面、家庭環境(父・淑夫 ジャーナリストの先駆け、兄・林不忘『丹下左膳』作者、弟二人は文学者)など画家湊二郎を取り巻くエピソードも多いといえます。しかし、作品発表の場が少なく、一部の識者に高い評価を受けながらも、その画業の全体像はいまだ明確にされていません。

公立美術館として初めての回顧展となる本展は、初期から晩年の作品を網羅し、そのきわめて独創的な絵画世界を検証します。近年、雑誌、テレビ等で幻の画家として繰り返し取り上げられ、再評価の機運が高まる長谷川湊二郎の全貌をご紹介します。展覧会です。

### ●関連事業(予定)

事業名	日時、場所、講師等	参加者
講演会「長谷川湊二郎の魅力」	4月29日(木・祝) 14:00～15:30 / 講演者：原田光氏(岩手県立美術館館長) / ミュージアムホール	—
担当学芸員によるギャラリートーク	4月24日(土)、5月3日(月・祝)、5月22日(土)、6月5日(土) 各回 14:00～14:40 / 展示室Ⅱ	—

### ■ 3 黒崎俊雄展

会期：2010年6月26日(土)～8月29日(日) 開催日数 56日

種別	特集展
主催	平塚市美術館
観覧料	一般 200(140)円、高大生 100(70)円 ※各減免を除く
担当	江口恒明(当館学芸員)

#### ●内容

黒崎俊雄(カサトシ 1946-)の近作を中心に、小中高校生との共同制作作品を含めて展覧します。

黒崎は現在、神奈川県葉山町で制作を続けている造形作家です。その作品は、初期のモノクロや落ち着いた色彩の抽象表現から、近年の鮮やかな色彩と動物や植物のイメージによる生命感あふれる表現へと様々な変化を遂げてきました。展示では、まずイタリア留学時代の作品を展示します。インクで細かな線を丹念に描き、やがて画面を埋め尽くすというものです。90年代になると、絵具を重ね塗りした上から、動物、樹木、人間をモチーフに線を刻む手法を用いたり、童画風の形を描くなど、それまでの作風から大きな転換をはかることとなりました。近年は、同じサイズの紙にネコを描いて壁一面に並べたり、新聞紙をつなぎあわせた大作や、スチレンボードのピースを配したインスタレーションなど、力強くのびやかで遊び心を刺激する作品を制作しています。本展ではこうした90年代以降の近作をメインに展示します。このほか、小中高校生と一緒にインスタレーションを制作し、展示室内のコーナーに展示します。

初期には抽象的な作風で絵画のもつ根源的な問題に取り組んだ表現から、親しみやすさをあわせ持つ近年の作品まで、多彩な表現を紹介します。

#### ●関連事業(予定)

事業名	日時、場所、講師等	参加者
小中高校生と作家による共同制作	①7月11日(日)13:00～16:30 対象・定員:高校生・20人 ②7月17日(土)13:00～16:30 対象・定員:中学生・20人 ③7月25日(日)13:00～16:30 対象・定員:小学生・20人 場所 美術館アトリエ、展示室2	—
作家によるワークショップ「アートな夏のTシャツ作り」	7月31日(土)10:00～12:00 / 対象・定員:高校生～一般・20人 / 参加費 900円 / アトリエ	—
作家によるワークショップ「Tシャツに描こう!夏休みのアート体験」	7月31日(土)14:00～16:00 / 対象・定員:小学校高学年～中学生・20人 / 参加費 900円 / アトリエ	—

## ■ 4 世界の絵本がやってきた ブラティスラヴァ世界絵本原画展

### ※特別展示 チェコの人形劇

会期：2010年7月17日(土)～8月29日(日) 開催日数 38日

種別	企画展
主催	平塚市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
後援	チェコ大使館、チェコセンター、スロヴァキア大使館
協賛	ライオン、清水建設、大日本印刷
協力	スロヴァキア国際児童芸術館(BIBIANA)、(社)日本国際図書評議会(JBBY)
観覧料	一般800(640)円、高大生500(400)円 ※各減免を除く
担当	安部沙耶香(当館学芸員)

#### ●内容

ブラティスラヴァ世界絵本原画展は、スロヴァキアの首都・ブラティスラヴァでおこなわれる世界最大規模の絵本原画展です。同展は1967年、当時のチェコスロヴァキアで第1回展が開催されて以来、2年ごとに開かれており、各国のベテラン作家たちの作品を一堂に展示し、その個性を競うものとして知られています。今回は、2009年秋に開催された第22回展より、各国の受賞作品と日本人作家による出品作品を中心に展示します。また、特別展示として、スロヴァキアの隣国・チェコの人形劇を紹介いたします。チェコの人形劇は日本の人形作家にも多大な影響を与えています。近年チェコの文化は日本でも静かなブームとなっていますが、これは日本においてチェコ人形劇を紹介する初の展示となります。さらに、ブラティスラヴァ展に出品された世界各国の絵本も併せて展示いたします。是非この機会に絵本の豊かな世界をお楽しみください。

#### ●関連事業(予定)

事業名	日時、場所、講師等	参加者
アーティストトーク	7月19日(月・祝) 14:00～15:00/展示室 I	—
人形劇団ブークによる糸繰り人形のデモンストレーション	7月31日(土)、8月1日(日)、7日(土)、8日(日) 各日2回開催 14:00～14:30・15:00～15:30/展示室 I	—
絵本の読み聞かせ	7月19日(月・祝)、25日(日)、8月22日(日)、28日(土) 11:00～11:30/平塚市内のボランティアの方々/展示室 I	—
担当学芸員によるギャラリートーク	7月25日(日)、8月14日(土) 各回14:00～14:30/展示室 I	—

## ■ 5 スペイン・リアリズムの輝き 磯江 毅展(仮称)

会期：2010年9月18日(土)～11月7日(日) 開催日数44日間

種別	特集展
主催	平塚市美術館
観覧料	一般200(140)円、高大生100(70)円 ※各減免を除く
担当	小池光理(当館学芸員)

### ●内容

力強くかつ繊細な描写力と、静謐な情感を湛えたリアリズムの画家、磯江毅(イツヰン 1954-2007)の作品を、初めて公立美術館にてご紹介します。

磯江は大阪に生まれ、1974年18才でスペインに渡り、王立美術館でデッサンの基礎を学びながら、プラド美術館にも通い名画の模写に没頭しました。その才能が認められ、1980年頃からスペイン画壇で活躍するようになり、自らを「GUSTAVO ISOE」と名乗り、アントニオ・ロペス・ガルシアといったスペイン・リアリズムの画家たちと交流をもつようになります。30年以上をスペインに暮らして現代リアリズム表現を追究した画家の作品からは、単に対象物を写し取るのではなく、その物が発するエネルギーと存在感を、自己の持ち得る技術を駆使し、精神世界までも表現するという姿勢をうかがうことができます。それ故、寡作であったうえに53才の若さで急逝したことから、その作品を目にする機会はこれまであまりありませんでした。この展覧会では、磯江の作品約50点により、その絵画世界を展覧します。

### ●関連事業(予定)

事業名	日時、場所、講師等	参加者
担当学芸員によるギャラリートーク	日にち未定 各回14:00～14:30 / 展示室II	—

■6 堀 文子展 会期：2010年10月9日(土)～11月23日(火・祝)

■7 高瀬省三・石橋聖<sup>まきのり</sup>肖像展 会期：2010年11月9日(火)～12月23日(木・祝)

■8 ロビー展 会期：2010年12月4日(土)～2011年4月上旬

■9 春の所蔵品展 会期：2011年1月4日(火)～4月上旬

## II 教育普及

### (1)教育プログラム

#### 平成 22 年度プログラム(案)

■ 1 子育て支援プログラム ベビー・アート		募集 25組 50人
○日数・開催日	4/22(木)、5/13(木)、6/10(木)連続講座	○講師：富田めぐみさん(アートで子育てアドバイザー)
○対象	初回開催時1才～2才3ヶ月のお子さん と保護者	○内容：赤ちゃんは美術を通して家では出来ない体験をし、お母さんは子どもの成長と子育てに関する悩みを解消します。
○材料費	500円	

■ 2 こころのお絵かき ～親子でコラージュ～		募集 10組 20人
○日数・開催日	4/24(土)	○講師：福山恵美子さん(アートセラピスト)
○対象・定員	小・中学生とその保護者	○内容：気に入った絵や写真をチョキチョキ切り抜いて、大きな画用紙に貼って、コラージュをつくります。
○材料費	200円	

■ 3 みんなの光るどろだんご講座		募集 各回 20人
○日数・開催日	5/5(水・祝) 午前・午後2回開催	○講師：岩月真由子さん(土の美術家)
○対象	小学生	○内容：左官の技法「千石磨き」を使って光るどろだんごを制作。
○材料費	1,000円	

■ 4 頭部を見て・描いて・作る～絵画から彫刻～		募集 20人
○日数・開催日	5/30(日)、6/6(日)、6/12(日) 全3回連続講座	○講師：東海大学芸術学科美術学課程の先生方
○対象	中学生～一般	○内容：当館の彫刻を題材に、絵画と彫刻について木炭でデッサンすること、粘土で造形することを通して基礎を学びます。
○材料費	2,500円	

■ 5 江戸の伝統紙細工～七夕の紋切り遊び		募集 20人
○日数・開催日	6/9(水)、6/12(土) 全2回連続講座	○講師：下中菜穂さん(造形作家)
○対象	一般	○内容：江戸から伝わる紙造形「紋切り遊び」で七夕にちなんだ模様を切り抜きます。
○材料費	1,200円	

■ 6 子育て支援プログラム ベビー・アート		募集 25組 50人
○日数・開催日	7/1(木)、8/5(木)、9/9(木) 全3回連続講座	○講師：富田めぐみさん(アートで子育てアドバイザー)
○対象	赤ちゃんとその保護者	○内容：赤ちゃんは美術を通して家では出来ない体験をし、お母さんは子どもの成長と子育てに関する悩みを解消しました。
○材料費	500円	

■ 7 アートで自分発見「パワーアップ・カードづくり」		募集 10組 20人
○日数・開催日	7/24(土)	○講師：福山恵美子さん(アートセラピスト)
○対象	親子(小学生)	○内容：日頃溜まったストレスをパステルを塗る作業を通して解消すると同時に、自分の新しい面に気がきます。
○材料費	200円	

■ 8 小中学校教員用ワークショップ		募集 20人
○日数・開催日	7月中	○講師：津久井智子さん(ラバースタンプアーティスト)
○対象	小中学校教員	○内容：未定
○材料費	未定	

■9 絵本原画展関連 ペたぺた光の水族館(仮称)		募集 25人
○日数・開催日	7月～8月	○講師：岩田晶子さん(子供美術教室講師)
○対象	4才～小学生	○内容：参加者の共同作業で大きなオブジェを作って、一定期間テーマホールのガラス窓に展示します。
○材料費	200円(予定)	

■10 黒崎俊雄展関連 アートな夏のTシャツづくり		募集 20人
○日数・開催日	7/31(土) 午前	○講師：黒崎俊雄さん(造形作家)
○対象	高校生～一般	○内容：Tシャツに専用の絵の具で思い思いの絵を描いて、オリジナル・Tシャツをつくります。
○材料費	900円(予定)	

■11 黒崎俊雄展関連 Tシャツに描こう！夏休みのアート体験		募集 20人
○日数・開催日	7/31(土) 午後	○講師：黒崎俊雄さん(造形作家)
○対象	小学校4,5,6年生～中学生	○内容：Tシャツにチューブ絵の具で、好きな絵を自由に描いて、オリジナルTシャツをつくります。
○材料費	900円(予定)	

■12 子育て支援プログラム 「作ってあそぼう わくわくランド」		自由参加
○日数・開催日	8月上旬	○講師：平塚市内の保育士の方々
○対象	未就学児	○内容：保育士さんと一緒にいろいろなおもちゃをつくります。
○材料費	無料	

■13 みんなの光るどろだんご講座		募集 各回 20人
○日数・開催日	8/6(金) 午前・午後2回開催	○講師：岩月真由子さん(土の美術家)
○対象	小中学生	○内容：左官の技法「千石磨き」を使って光るどろだんごを制作。
○材料費	1,000円	

■14 へたでも楽しくえがくぞ(仮称)		募集 20人
○日数・開催日	8月中	○講師：平塚美術家協会会員の先生方(予定)
○対象	小中学生	○内容：家からもってきたお気に入りのもの、また季節の果物や野菜をモチーフに、ダイナミックに描くことを楽しんだ。
○材料費	100円(予定)	

## 平成 22 年度下半期の展覧会予定(2)

### ■ 5 スペイン・リアリズムの輝き 磯江 毅展(仮称)

会期：9月18日(土)～11月7日(日) 開催日数 44 日

種 別	特集展
主 催	平塚市美術館
観覧料	一般200(140)円、高大生100(70)円 ※各減免を除く
担 当	小池光理(当館学芸員)



シルヴィア・ミニオ＝パルウエルロ・保田  
《樹下に遊ぶ幼子イエスと聖母》



《展示風景》



《展示風景》

#### ●内容

冬の所蔵品展では「祈りのかたち」と題して、聖書や仏典の情景を描いたもの、あるいは深い宗教性をたたえた作品を紹介しました。

太古の時代から、人々は果てしない天空や身のまわりの自然の中に神の存在を感じ、それを詩や音楽、絵画など様々な形で表現してきました。そして世界宗教となったキリスト教や仏教が語る豊かな精神世界は、時代や国を超えて、多くの芸術家のインスピレーションの源となってきました。

この特集展では、日常生活に温かい眼差しを注ぎながら、キリスト教の信仰心のもと、そこに“神の在る世界”を見出して制作を行った彫刻家、シルヴィア・ミニオ＝パルウエルロ・保田(1934-2000)の彫刻やエスキースの数々を展

示しました。また、イタリアで目にしたフレスコ画やキリスト教の地下墓地(カタコンベ)の壁画と、日本の仏画に共通性を見出して、静謐で叙情的な空間を描いた有元利夫(アリモトシオ 1946-85)の作品、東洋の宗教世界を、独自の解釈で描いた工藤甲人(クドウカウジン 1915-)や伊藤彬(イトウキウ 1940-)の作品、また山本直彰(ヤマモトナオキ 1950-)の日本画の技法で描かれた「ピエタ」、世界各地の神の使いを描いた菅野陽(カノノヨウ 1919-95)の銅版画シリーズ《天使と飛天と》など、人間のもつ神の世界への憧れを、当館所蔵の優れた作品 53 点により展覧しました。

●関連事業

事業名	日時、場所、講師等	参加者
担当学芸員によるギャラリートーク	1月9日(土)、1月17日(日) 各回 14:00～14:30 / 展示室Ⅱ	計7人

■ 6 堀 文子展

会期：10月9日(土)～11月23日(火・祝) 開催日数 39日

■ 7 高瀬省三・石橋聖肖展

会期：11月9日(火)～12月23日(木・祝) 開催日数 39日

■ 8 ロビー展

会期：12月4日(土)～4月上旬

■ 9 春の所蔵品展

会期：1月4日(火)～4月上旬